国立公文書館
分類
返 赤
配架番号
3 A
14
30-17

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

中部太平洋方面作戦記録　第一巻

昭和二十一年十一月
第一復員局

国立公文書館
分類
配架番号 30-17

註

起案ハ主トシテ元大本營參謀陸軍少佐岩野正隆元第百十四師團參謀及陸軍大佐多田督知元第五十二師團參謀陸軍中佐有田敬三之ヲ擔任シ關係者ノ援助ヲ得テ作製ス

記錄由所ハ主トシテ記憶ノ回想及分散セル斷片的資料ノ收集ニ據レリ

但南海支隊ノ作戰ハ參謀本部史實部ニ於テ當時ノ大本營資料及現地報告等ヲ以テ元師團軍中佐田島榮邦起案ノ殘存原稿ニ據レリ

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

中部大平洋方面作戦記録（第一巻）資料出所一覧表

頁	項目	資料出所
一	第一章 南海支隊ノ作戦	舊参謀本部史實部ニ於テ當時ノ公的資料ヲ基礎トシテ元田島中佐ノ起案セシ原稿ニ據ル
一三	第二章 第一節～第四節	岩野少佐記憶
一六	第二章 第五節	岩野少佐有田中佐等ノ記憶並個人資料
二〇	第二章 第六節～第八節	岩野少佐ノ收集セル一部資料及有田中佐ノ記憶
二七	第三章 第一、～第二節	大本營統帥記錄參照 岩野少佐記憶
三五	第三章 第三節	多田大佐ノ個人資料 附表第一、第二ハ有田中佐ノ個人掛錄等ニ依レリ
六三	第四章 第一節	有田中佐ノ記憶ヲ主トス
六四	第四章 第二節～第五節	岩野少佐 有田中佐等ノ收集セル一部資料及記憶 要圖ハ殘存資料ニ依ル
九八	第五章	有田中佐ノ記憶ヲ主トス
一〇〇	第六章	岩野少佐ノ收集セル資料及記憶ヲ主トス 要圖ハ殘存資料ニ據ル
一二八	第七章	有田中佐ノ記憶個人資料ヲ主トス

21(1/2)

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

目次

第一卷

第一章　南洋支隊ノ作戦

第一節　大本營ノ作戦準備及陸海軍ノ協同

第二節　南洋支隊ノ編成準備

第三節　「グワム」島攻略作戦

第二章　自一九四二年（昭和十七年）至一九四四年初頭（昭和十九年）　中部太平洋方面作戦

第一節　一九四二年（昭和十七年）ニ於ケル一般狀況

第二節　一九四二年（昭和十七年）末頃ニ於ケル南東方面一般ノ情勢

第三節　中部太平洋諸島防備ノ發令・陸軍部隊ノ派遣

第四節　一九四三年（昭和十八年）夏頃ニ於ケル一般情勢

第五節　中部太平洋諸島方面ニ陸軍部隊ノ派遣增强

第六節　「キルバート」作戦（南洋第一支隊及甲支隊ノ狀況）

第七節　「クエゼリン」島附近ノ作戦

第八節　「ヴラウン」「トラック」島附近ノ作戦

第三章　第三十一軍統帥發動及兵力增加

第一節　一九四四年（昭和十九年）初頭ニ於ケル一般情勢

第二節　第三十一軍ノ編成ト統帥發動

第三節　第三十一軍防備計畫ノ概要

第四章　自一九四四年（昭和十九年）春　至一九四五年（昭和二十年）夏　中部太平洋方面作戦

第一節　第三十一軍主力ノ展開

第二節　「サイパン」島附近ノ作戦

第三節　「グアム」島附近ノ作戦

第四節　「テニアン」島附近ノ作戦

第五節　「マーシャル」「カロリン」方面ノ狀況

第五章　「マリアナ」失陷後一九四四年末ニ至ル第三十一軍ノ作戦

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第六章　琉球島防衛作戦

第七章　一九四五年（昭和二十年）ニ於ケル中部太平洋諸島ノ狀況

第一節　第三十一軍ノ作戦指導

第二節　戦時ノ一般狀況

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第一章　南海支隊ノ作戦

第一節　大本營ノ作戦準備及陸海軍ノ協同

一、太平洋諸島ニ對スル大本營ノ作戦計畫ハ南海支隊ヘ在四國第五十五師團ノ歩兵團長ノ指揮スル歩兵一ケ聯隊基幹）及第四艦隊ヲ基幹トスル部隊ヲ以テ先ヅ「グアム」島ヲ攻略シ次デ「ビスマルク」諸島ノ航空基地ヲ占領シ又別ニ第四艦隊ノ一部（海軍聯戦隊）ヲ以テ「ウエーキ」島ヲ攻略セシメ南海諸島方面ニ對スル敵ノ脅威ヲ封殺スルニ在リ

即チ南海支隊ハ作戦初頭先ヅ「グアム」島ヲ攻略シ次デ其ノ守備ヲ陸戦隊ト交代シ機ヲ見テ陸海軍協同ノ下ニ「ラバウル」ヲ占領シテ航空基地ヲ獲得ス爾後南海支隊ハ成ル可ク速カニ同地ノ守備ヲ陸戦隊ト交代シテ「パラオ」附近ニ轉進ス

二、「グアム」島及「ビスマルク」諸島作戦ニ關スル陸海軍中央協定ノ要旨左ノ如シ

1 作戦目的

「グアム」島及「ビスマルク」諸島ノ要地ヲ攻略シテ南洋群島方面ニ對スル敵ノ脅威ヲ封殺スルニ在リ

2 作戦方針

陸海軍協同シテ作戦初頭「グアム」島ヲ攻略シ次デ機ヲ見テ「ラバウル」ヲ攻略シ航空基地ヲ獲得ス

3 作戦開始

「グアム」島ニ對スル攻撃ハ封米航空兵力ヲ撃破シタル後之ヲ開始ス

三、作戦要領

1 海軍航空部隊ハ開戦初頭「サイパン」島方面ヨリ「グアム」島ノ敵陸海防備施設等ヲ攻撃撃滅ス

2 海軍ハ陸軍ノ「グアム」島ニ到ル輸送ヲ護衛シ且其ノ上陸作戦ニ協力ス

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

3、陸軍ハ「グアム」島ニ上陸セバ主力ヲ以テ「アプラ」港ヲ攻略スルト共ニ一部ヲ以テ「アガニア」ヲ占領シ引續キ島内ノ殘敵ヲ掃蕩ス

4、陸軍ハ「グアム」島ノ掃蕩完了セバ海軍部隊ト同島ノ守備ヲ交代シ海軍護衛ノ下ニ「トラック」諸島ニ轉進シ「ビスマルク」諸島方面ニ對スル作戰ヲ準備ス

5、海軍ハ先ヅ「ビスマルク」諸島方面ニ對スル航空偵察ヲ實施シ要スレバ適時攻撃ヲ行フ

6、海軍護衛兵力ノ狀況之ヲ許スニ至ラバ機ヲ見テ陸海軍協同シテ「ラバウル」ヲ攻略シ同地ノ航空基地ヲ占領ス

又海軍ハ狀況ニ依リ「カビエン」ノ航空基地ヲ占領ス

7、陸軍ハ「ラバウル」占領後狀況之ヲ許ス限リ速カニ同地ノ守備ヲ海軍部隊ト交代シ海軍護衛ノ下ニ「バラオ」附近ニ集結ス

四、集合點

「グアム」作戰　小笠原諸島

「ビスマルク」作戰　「トラック」諸島

五、使用兵力

陸軍　南海支隊（第五十五師團ノ歩兵三大隊基幹）

海軍　第四艦隊ヲ基幹トスル部隊

第二節　「グアム」島攻略部隊ノ編成装備

南海支隊戰鬪序列左ノ如シ

支隊長　陸軍少將　堀井富太郎

第五十五歩兵團司令部

歩兵第百四十四聯隊

騎兵第五十五聯隊第三中隊（一部欠）及同聯隊ノ遠射砲一分隊

山砲兵第五十五聯隊第一大隊

工兵第五十五聯隊第一中隊及器材小隊ノ一部

第五十五師團通信隊ノ一部

輜重兵第五十五聯隊第二中隊

三

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第五十五師團衛生隊ノ一部
第五十五師團第一野戰病院
第五十五師團輜重隊ノ一部
第五十五師團防疫給水部ノ一部
野戰高射砲第四十七大隊(乙)ノ一中隊
南海支隊ノ編成裝備ノ概要
第五十五歩兵團司令部
通信班　三號機　五號機若干、有線若干
主計及軍醫將校、下士官ヲ增加配備ス
歩兵第一四四聯隊（三大隊、歩兵砲中隊、通信隊、彈藥班）
大隊ハ歩兵三中隊、MG一中（四銃）大隊砲一小（二門）
歩兵砲中隊ハ聯隊砲二門速射砲二門
歩兵中隊ハ三小隊（LG三、四）
通信隊ハ五號機ヲ有ス

騎兵中隊（小隊數不明MG二、速射砲一）
山砲大隊（中隊三ー十二門）
工兵中隊（四小隊）
輜重兵中隊（自動車編成、車數不明）

第三節　「グアム」島攻略作戰

一、「グアム」島ノ敵情及地理ニ關シ作戰前知リ得タル事項

「グアム」島ハ敵ノ海軍航空基地ニシテ海兵隊約三百駐屯スルノ外土民兵約千五百アリ海岸及島內數箇所ニ砲台ヲ構築シアルガ如シ同島ノ兵要地理ニ關シテハ以上ノ外其ノ大要ヲ承知ス

二、攻略準備

南海支隊長ハ十一月八日大本營ニ於テ前記「グアム」島攻略準備ニ關スル大本營命令ヲ受領シ同月十四、十五ノ兩日岩國海軍航空隊ニ於テ第四艦隊司令長官トノ間ニ海軍現地協定ヲ協議準備シタル上二十日丸亀（四國）ニ於テ「支隊ハ主力ヲ以テ「アプラ」港海軍

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

基地ヲ一部ヲ以テ首都「アガニア」市ヲ占領確保スル」企圖ノ下ニ攻略ニ關スル支隊命令ヲ下達シ之ガ準備ヲ促進セリ

右命令ニ依ル南海支隊上陸要領及各部隊上陸部署ノ大要左ノ如シ

南海支隊上陸要領ノ大要

一、要領

(イ)支隊ハ第二回舟艇移乗ヲ黎明直前トシ第二回上陸ヲ以テ第一線部隊ノ主力ヲ上陸セシメ爾後其ノ戰力ヲ強化シ上陸日午前中ニハ第一線部隊ヲシテ獨力戰鬪シ得ルニ至ラシム

(ロ)直接戰鬪ニ必要ナラザル部隊及資材ハ輸送船ヲ「アブラ」港（狀況ニ依リ「アガト」港）ニ廻航セシメテ上陸ス

二、實施

(イ)泊地進入ヨリ陸岸達著迄ノ時間關係左ノ如シ

泊地進入　二四〇〇

第一回上陸開始　〇二〇〇

第二回移乗開始　〇四三〇

（黎明ハ〇五三〇トス）

(ロ)第一回移乗ノ爲輸送船ハ沖合概ネ三浬ノ位置ニ漂泊シ投錨スルコトナシ

(ハ)上陸ハ上陸時機之ヲ許セバ勉メテ滿潮ヲ利用シ一擧ニ石花礁上深ク達著スルコトニ勉ム

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

南海支隊第一線部隊上陸部署表

昭一六、一二、二九
南海支隊司令部

軍參綜組	任務	上陸海岸	行動概要
支隊司令部	支隊全般ノ統帥ヲ行フ	海岸ヲ主ト憲司ニ上陸シ遠カニ「アガ」町ニ進出ノ指揮ヲ行フ	
南瀬部隊	一、主ヲ以テ敵軍ノ背後ニ有ル「コタバル」山ノ占領ニ任ズ 二、方ニ憲司上陸部隊ノ行ツタ「アガ」マレー海岸ヲ進撃シ第二項ノ任務ニ協同ス 三、第一ノ任務ニ協同シ「コタバル」ノ敵ヲ撃滅ス	配當船舶 大發 十一 小發 十一 ヤマー 若干	
堀本支隊	一、主ヲ以テ「コタバル」山ノ占領ニ任ズ 二、方ニ憲司上陸部隊ノ行ツタ「アガ」マレー海岸ヲ進撃シ第二項ノ任務ニ協同ス 三、第一ノ任務ニ協同シ「コタバル」ノ敵ヲ撃滅ス	上陸後一五〇〇ノ線ニ進出 爾後ノ任務ニ基ク行動ヲ行フ	配當船舶 大發 五 小發 五 ヤマー 若干
林部隊	一、主ヲ以テ「コタバル」山ノ占領ニ任ズ 二、方ニ憲司上陸部隊ノ行ツタ「アガ」マレー海岸ヲ進撃シ第二項ノ任務ニ協同ス 三、第一ノ任務ニ協同シ「コタバル」ノ敵ヲ撃滅ス	上陸後一五〇〇ノ線ニ進出 爾後ノ任務ニ基ク行動ヲ行フ	配當船舶 大發 五 小發 五 ヤマー 若干
海軍ノ協同		天候良ケレバ部隊上陸ヲ日出セバ上陸 海岸ニ対シ天明後艦砲射撃ヲ実施シ敵ヲ制ス	

其ノ他

一、夜間ハ切ニ敵ヲ警戒シ上陸ニ際シ特ニ陸海空ノ緊密ナル連絡ヲ保ツ

二、集合点ヨリ上陸地点ニ近ヅクニ従ヒ敵ノ警戒ヲ厳ニシ

三、上陸開始ノ合図ハ各分隊毎ニ長ノ指示ニ依ル

四、艦砲射撃及爆撃ハ天明後トシ其ノ時間ハ別ニ定ム

一、線大隊長ト関係海軍指揮官トノ協定ニ依ル

五、海軍ヨリ別ニ陸戦隊員約一〇〇ヲ支隊ニ配属シ支隊ヲ補強シ支隊ヲ備隊トシテ指揮使用ス

六、天候悪シ上陸不可能ニ陥リタル際ノ行動ハ別ニ示ス

1:32

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

三、集合點集合

支隊ハ四國坂出港ニ於テ輸送船九隻ニ乘船シ十一月末逐次母島沖港

碇地ニ集合ス

四、攻略實施

支隊長ハ十二月二日母島ニ在リテ大本營ヨリ「グアム」島攻略ニ關スル命令ヲ受領シ同日「十二月十日上陸ヲ開始シ「グアム」島ヲ攻略スヘキ支隊命令ヲ下達セリ、

第四艦隊護衛ノ下ニ「マリアナ」諸島東方海面ヲ經テ「グアム」島ニ向フ（支隊長ハ第一輸送船團）船團ハ海中航行ト遭遇スル事無ク八日「ロタ」島附近ニ於テ夫々上陸地ニ向ヒ分進ス

海軍第四根據地隊ハ在「トラック」所屬第十七航空隊及特空母翔鶴丸飛行機ハ八日以來「グアム」島ニ對シ航空攻撃ヲ開始シ「オロテ」半島一帶ハ濃々タル黑煙ニ包マレ且敵ノ掃海艇「ベンギン」ハ

港外ニ於テ沈沒セルコト確實ナル旨ノ情報アリ

各船團ハ十日零時乃至一時ノ間相前後シテ泊地ニ進入シ灣内ノ警戒チニ爆水ヲ開始シ引續キ午前二時三十分前後各方面上陸ヲ開始シ「アガナ」港上陸部隊タル海本大隊方面ニ於テ若干ノ敵ヲ撃滅セル外各方面共大ナル敵ノ抵抗ヲ受クルコト無ク十日午前中ニ「グアム」島ノ要地ヲ悉ク占領シ十一、十二ノ兩日島内ヲ掃蕩シ攻略ヲ完了ス

海軍陸戰隊（約四百名）ハ海本大隊上陸後第二回ニ「アガナ」灣ニ上陸ノ豫定ナリシモ同灣ノ海岸狀況不良ナルヲ知リ第一回上陸ト同時頃「アガニア」市附近ニ直接上陸シ爆甲若干ノ敵ノ抵抗ヲ排シ「グアム」飛行場ヲ占領ス時ニ四時三十分ナリ

南海支隊司令部ハ楠瀬部隊ノ第二回上陸部隊ノ直後「メリソ」ニ上陸セシガ「ウマタ」ー「アガト」間道路無キヲ知リ直チニ舟艇機動ニ依リ北進シ「ファクピ」岬北側ニ上陸シ十四時「アガト」ニ進出シ同日夕「アガニア」市ニ入レリ

1:25 m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 1
裏面白紙
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

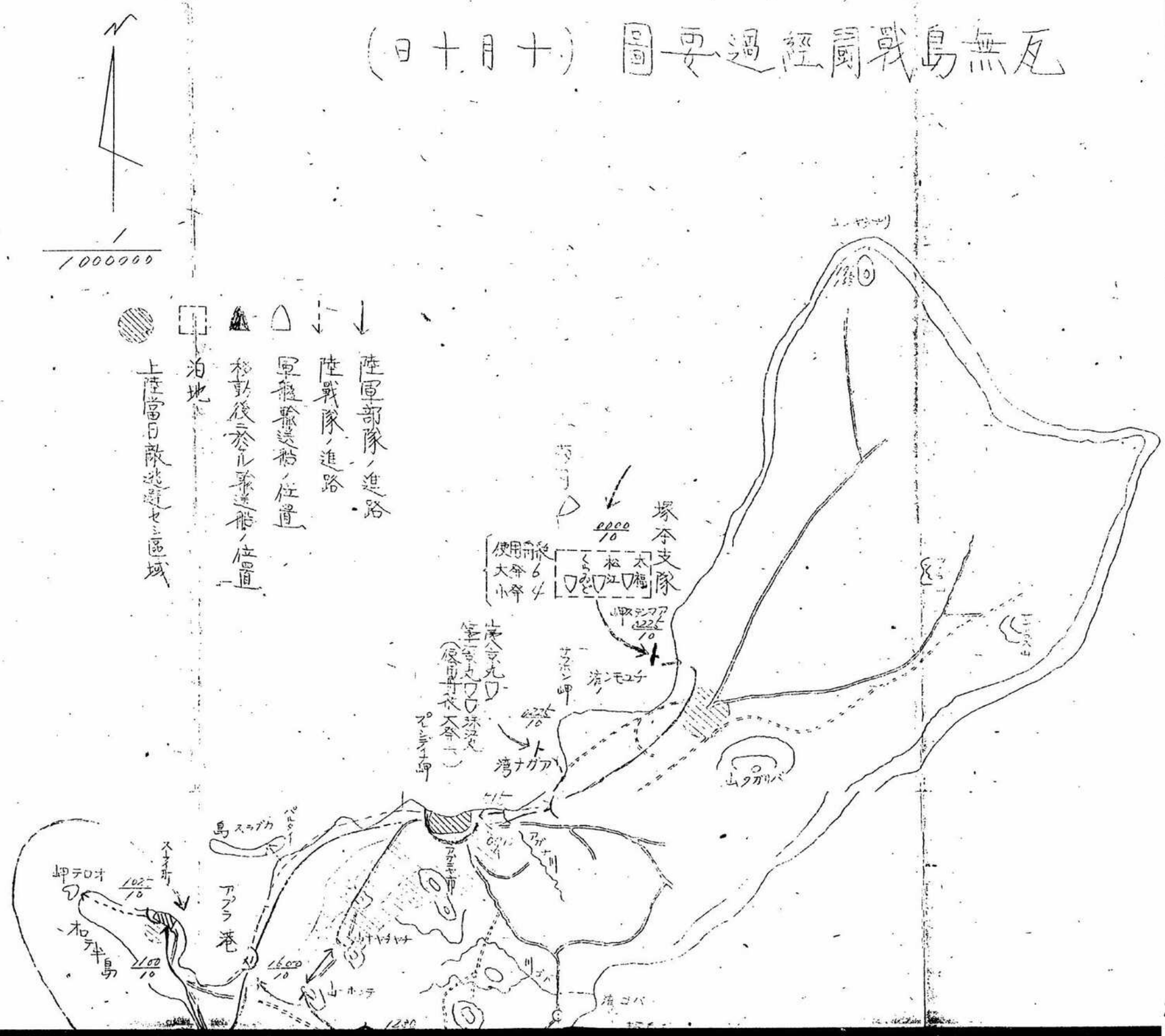
戰鬪經過ノ概要別紙要圖ノ如シ

支隊ハ引續キ殘敵ヲ掃蕩スルト共ニ爾後ノ「ビスマルク」諸島攻略ノ作戰ヲ準備ス

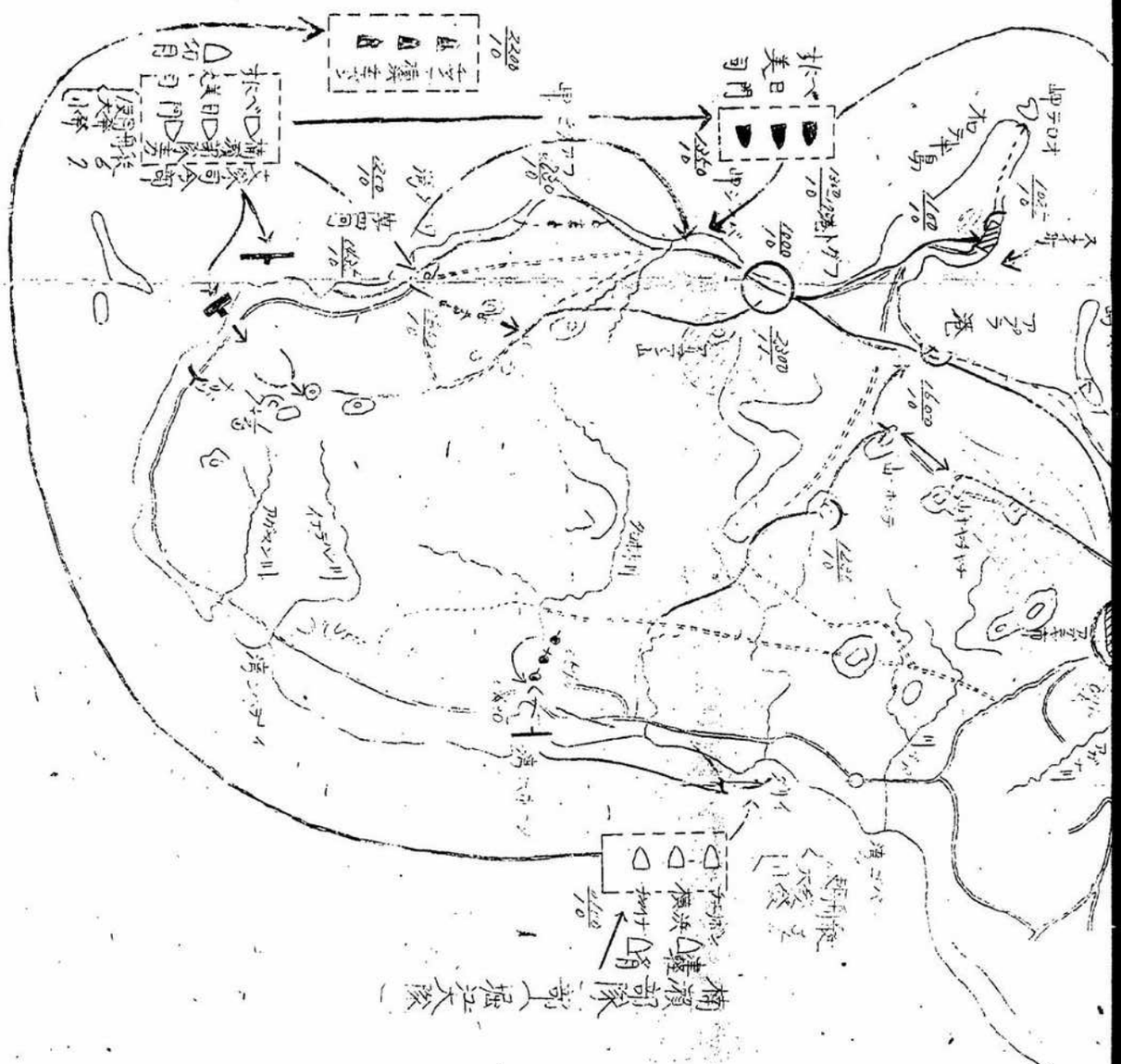
裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

瓦無島戰闘經過要圖（十月十日）



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第二章　自一九四二年（昭和十七年）至一九四四年初頭（昭和十九年）中部太平洋方面作戰

第一節　一九四二年（昭和十七年）ニ於ケル一般狀況

南海支隊ハ一九四一年（昭和十六年）十二月中旬初頭「グアム」島ヲ攻略シ之カ守備ヲ海軍部隊ニ委讓シタル後一九四二年一月中旬「ビスマルク」諸島攻略ノ爲同地ヲ出航シ此ノ間海軍第四艦隊ハ十二月二十三日「ウエーキ」島ヲ再攻シテ之ヲ占領ス

元來中部太平洋方面諸島ハ海軍ノ作戰地域ニ屬シ開戰ト共ニ海軍ハ緊要ノ島嶼ニ一部所要ノ部隊ヲ配置スル所アリシカ此等部隊ハ主トシテ海、空基地ノ設定增强ニ任シ陸上防禦ニ關シテハ其ノ施設殆ド實施スル所ナシ

一九四二年（昭和十七年）六月「ミッドウエイ」作戰生起シ中部太平洋方面緊張ノ場面ヲ呈シタルモ同島ノ攻略失敗以降一部潜水艦等ノ出沒スル外日米主海空戰ノ本舞台トナラズ極メテ平靜裡ニ一箇年ヲ閲セリ

第二節　一九四二年（昭和十七年）末頃ニ於ケル南東太平洋方面一般情勢

一九四二年（昭和十七年）夏以降米軍反攻ノ第一弾ハ先ツ南東太平洋方面「ソロモン」群島、「ニューギニヤ」島方面ニ表ハレ年末ニ至リ所次戰線ノ擴ヲ加フ

敵軍同後ノ一般企圖ヲ推斷スルニ右兩方面ノ作戰線ヲ併行北上シテ「ダンピール」海峽ヲ突破シ帝國ノ極東作戰根據「ラバウル」ノ攻略ヲ覗リテ南方海域活動ノ自由ヲ獲得シ爾後「ニューギニヤ」沿岸ヨリ比島海岸ヲ目標トシテ西北進スベク南洋群島線ニ沿フ海ノ作戰亦輕視スベカラズ此ノ間南方海域全般ニ亘リ潜水艦作戰及要地襲撃ヲ繼續シテ帝國ヲ窮地ニ陷入スルヲ努ムベシ

更ニ南東方面一般ノ戰勢ヲ觀察スルニ八月以降累次ノ戰鬪ニ依ル我ガ海軍航空兵力及補助艦艇ノ損耗ノ累加ト敵空海勢力ノ增强トニ依リ南東海域制空海權全ク敵手ニ入リ「ガ」島及東部「ニューギニヤ」

1:25 5
裏面白紙
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

方面ニ對スル兵力、軍需ノ補給困難化シ十二月以降ニ於テハ月暗時小艦艇ヲ以テスル最少限常續補給モ至難トナリ同方面ノ苦鬪損耗激增セリ

右情勢ニ鑑ミ大本營ハ「ガ」島ノ奪回ヲ繼續スルニ由ナク遺憾乍ラ同地ヲ撤收スルニ決シ又「ボートモレスビー」攻略作戰モ早急ノ實現ヲ斷念セリ

第三節　中部太平洋諸島防備ノ爲陸軍部隊ノ派遣

南東方面ニ於ケル戰局惡化ニ伴ヒ「ギルバート」諸島「マーシャル」群島「ウエーキ」島、南鳥島等中部太平洋方面ニ對スル敵來攻ノ算逐次表面化スルニ至レルヲ以テ大本營ハ一九四三年（昭和十八年）四月頃ヨリ六月ノ間攻勢ヘズ左ノ如ク陸軍兵力（各守備隊ハ夫々歩兵一、大隊、砲兵一中隊ヲ基幹トス）ヲ中部太平洋ニ派遣シ所在海軍部隊長ノ指揮下ニ入レ防備ノ強化ヲ援助セリ

部隊	島嶼	概要
南海第一守備隊	「ギルバート」諸島	四月中旬發令
南海第二守備隊	南鳥島	
南海第三守備隊	「ウエーキ」島	六月中旬發令
南海第四守備隊	「ギルバート」諸島	

備考　南鳥島部隊ハ横須賀鎮守府司令長官、爾餘ノ部隊ハ第四艦隊司令長官ノ指揮ヲ受ク

南海第四守備隊ハ第一守備隊海上遭難ノ爲更ニ編成派遣セルモノトス

南海第四守備隊ハ「ギルバート」ニ前進途中、第八方面軍（第十七軍）ノ隷下ニ入リ南東方面（「ボーゲンビル」及「ショートランド」島ニ便用セラレタリ

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第四節　一九四三年（昭和十八年）夏頃ニ於ケル一般情勢

中部南太平洋方面ニ於テ多大ノ犧牲ヲ拂ヒツツ確保ノ努力ヲ傾注セル東部「ニューギニア」ノ「ラ、エ」「サラモア」附近ノ要域、中部「ソロモン」諸島「マーシャル」群島ヲ進ヌル國防最前線モ逐次破綻ノ傾向ヲ辿リ「ラバウル」ヲ中心トスル南東方面ノ無力化ハ「マーシャル」「ギルバート」諸島方面ノ崩壊ヲ招來スルノミナラズ敵海空軍ノ活動ハ中部太平洋諸島東端方面ニ強盛トナリ强力ナル一作戰ヲ同方面列島ニ沿イテ指向スルノ氣濃厚トナレリ

即チ彼我会戰態勢ノ顯著ニ依リ長期ニ亘ル敍上國防最前線確保可能ノ氣ハ漸次稀薄化シ南東方面作戰ノ性格ハ逐次持久戰略ニ轉換セシメサルヘカラサルノ趨向ニアリ

第五節　中部太平洋諸島方面ニ對スル陸軍部隊ノ派遣增强

(一)大平洋ハ一九四三年（昭和十八年）八月末ニ至リ中、南東太平洋方面一般ノ情勢ニ鑑ミ帝國ノ國防圏ノ最前線ヲ「バンダ」海方面ヨリ像北方面「カロリン」群島ノ線ニ設定シ同要域ニ於ケル陸上防備ヲ急成シ航空戰力ヲ整備シテ反擊作戰ノ支撐ヲ完成シ以テ敵ノ進攻ヲ破摧センコトヲ企圖ス

(二)右ニ基キ海軍ハ固ヨリ中部太平洋方面強化ニ努力スル所アリト雖モ之ニノミ依存シ能ハズ海軍陸上防衛力ヲ增强スル爲各方面ヨリ新設或ハ轉用ニ依ル陸軍部隊ヲ急速ニ增加派遣ノ要アリ其ノ計畫別紙ノ如ク此ノ間秋山工兵少將ヲ參トスル第就國ヲ派遣シ諸島ニ於ケル海軍築城ノ現況視察防備施設ノ築計畫大綱ノ作製ニ任ゼシメタリ

裏面白紙

14

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

一九四三年九月現ニ於ケル中部太平洋方面増強兵力推進要領

地點	部隊	兵力	推進豫定時期
南鳥島	南海第二守備隊	i一六A一中	既設
「ワエーキ」島	南海第三守備隊	i一大A一中	
「クエゼリン」及「ハ」「ヤルート」	海上機動旅團(甲)	i三大A一大Tk中MA一中p一中等	一九四四年一月
「マロエラワプ」「ミレ」	南洋第一支隊	i二大Tk一中	一九四三年九月
「クサイエ」	南洋第二支隊	i三大Tk一中p一中	一九四三年十一月
「ポナペ」	南洋第三支隊 海上機動旅團	i三大Tk一中A一中p一中 i三大A一大Tk一中p一中等	一九四三年十一月 一九四三年九月
「トラック」	第五十二師團主力 海上機動旅團(乙)	i六大Tk一中A二大p二中其ノ他 i三大A一大Tk一中p一中等	一九四四年一月 一九四四年二月
「モートレック」	南洋第四支隊	i一大Tk一中	一九四三年十一月
「サイパン」 「テニアン」 「グワム」	第十三師團主力 海上機動旅團(乙)	i六大Tk一中A二大p二中其ノ他 i三大Tk一中A一大p一中等	一九四四年七月
「メレヨン」	南洋第五支隊	i二大Tk一中	一九四四年一月
「パラオ」	南洋第六支隊	i二大Tk一中	一九四四年八月

備考

右部隊ノ編成ニ關係ハ東部軍ニシテ第四艦隊司令長官ノ指揮ニ入ラシム

裏面白紙

15

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

(三)「ウエーキ」島ニ対スル敵ノ反攻

一九四三年（昭和十八年）八月三十日敵機動部隊ハ「ウエーキ」島ニ來襲猛烈ナル砲爆撃ヲ敢行一部隊ノ上陸ヲ企圖セシモ所在部隊ノ奮戰ニヨリ克ク之ヲ撃退セリ

(四)敵ノ「ギルバート」諸島並ニ「ウエーキ」島等ニ対スル反攻企圖ハ八月末ニ到リ漸次顕著トナリシヲ以テ大本營ハ取敢ヘズ比島ニアリシ歩兵第百二十二聯隊ヲ「マーシャル」群島ヘ次デ九月内地ニ於テ動員セル第五十二師團ヨリ甲支隊（歩兵三大隊砲兵一大隊工兵一中隊）ヲ編成シ「ポナペ」島ニ派遣シ第四艦隊司令長官ノ指揮下ニ入レ夫々敵ノ反攻企圖ノ破摧ニ任ゼシム

(五)陸軍主力部隊ノ展開準備

大本營ハ十月第五十二師團及第十三師團ノ各一部ヲ夫々「トラック」島及「マリアナ」群島ニ派遣シ作戰資料ノ收集部隊展開ノ諸準備ヲナサシムルト共ニ該部隊ノ主力ハ内地及中支那ニ於テ海洋作戰準備ノ

訓練及所要ノ編成改正ヲ實施セリ

註　第十三師團ハ開戰後支那一號作戰實施ノ爲派遣ヲ中止セシメラレ二月滿洲ヨリ第二十九師團ヲ派遣セラレタリ

第六節　「ギルバート」作戰（南洋第一支隊及甲支隊狀況）

(一)一九四三年（昭和十八年）十一月敵ハ我ガ所在海軍部隊及第四艦隊航空部隊ノ必死ノ反撃ヲ排シ「ギールバート」諸島「マキン」「タラワ」ニ上陸シ來レリ

(二)南洋第一支隊ノ狀況

支隊ハ九月上旬「マーシャル」地區ニ進出各一部ヲ以テ「ウオッチエ」「マロエラップ」「ヤルート」ニ主力ヲ以テ「クエゼリン」島ニアリシガ「ギルバート」方面ノ戰況ニ鑑ミ主力ヲ以テ增援出動ヲ準備セリ然ルニ支隊ノ增援輸送困難ノ爲派遣中止トナリ支隊長ハ十一月三十日支隊主力（本部及一大隊一及歩兵第百七聯隊ノ第三大隊山砲第十六聯隊第三大隊（第一中隊欠）工兵第五十二聯隊第二中隊

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

（一小欠）ヲ併セ指揮シ「ミレ」島ニ進出該地ノ守備ニ任ズルコトトナレリ

(三)甲支隊ノ狀況

甲支隊ハ一九四三年十月「ポナペ」島ニ全兵力ノ集中ヲ完了シ同島ノ防備ニ任ズルト共ニ隨時他方面ヘノ機動準備ヲ整フ十一月支隊長ノ指揮スル歩兵一大隊砲兵二中隊、工兵一中隊ハ「クエゼリン」島ニ進出、「ギルバート」方面作戰參加ヲ準備スル所アリシモ全局ノ推移ニ依リ之ガ中止トナリ歩兵一大隊、砲兵二中隊、工兵一中隊ヲ南洋第一支隊長ノ指揮ノ下ニ「ミレ」島ニ又聯隊長ノ指揮スル歩兵一大隊、砲兵一中隊ヲ「クサイ」島ニ爾餘ノ部隊ヲ「ポナペ」島ニ配置シテ夫々各島嶼ノ守備ニ任ズルコトトナレリ

第七節　「クエゼリン」島附近ノ作戰

(一)作戰前ニ於ケル一般ノ狀況

(1)敵ノ「ギルバード」諸島ニ於ケル航空基地ノ整備ニ伴ヒ「マーシャル」地區ヘノ敵機ノ來襲ハ逐次增加シ一九四四年一月ニ於テハ日々百〇一五〇機ニ及ベリ

又情報ニ依レバ一月下旬有力ナル敵艦隊ハ「ハワイ」ヲ出港西進セシモノノ如シ

(2)「マーシャル」、東「カロリン」方面增加部隊ハ一九四三年九月策定大本營ノ中部太平洋防備增強計畫ニ基キ概ネ豫定ノ時機ニ於テ逐次守備地域ニ到著シツツアリテ一月下旬ニ於ケル「マーシャル」群島方面ニ於ケル陸軍部隊ノ配置左ノ如シ

島嶼名	部隊	摘要
「クエゼリン」	II(-46) P 1kk / 1Si	一、1Si 該ニ甲支隊所屬部隊ハ九月ー十一月配備終了
「ウオッテエ」	4 1KK / 5 IMG 1Si	二、1kk 所屬部隊ハ一月下旬到著展開中ナリ
「マロエラップ」	6 1kK / 7 1Si	三、Si ハ支隊、kk ハ海上機動旅團ヲ示ス
「ミレ」	1Si (-II) / III 107i	
「ヤルート」	II (-57 MG) 1Si / III (-2) 16 BA 2(-1) 52 P	

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

(二)作戦經過ノ概要（一九四四年一月三十日～二月六日）

(1) 一月三十日早朝ヨリ「ルオット」「クエゼリン」「ウオッチエ」「マロエラップ」各島ニ對シ延約二千發ニ達スル艦載機ノ空襲アリ所在海軍航空隊並ニ地上各隊ハ奮鬪若干ノ敵艦船及來襲機ニ損害ヲ與ヘタリ

(2) 二月一日敵ハ機動部隊ヲ以テスル空襲間戦艦以下十二、輸送船四十五ヲ主体トセル部隊ヲ以テ「クエゼリン」環礁、「ルオット」及「クエゼリン」本島ニ對シ上陸ヲ開始ス

所在ノ我ガ部隊ハ奮戦大イテ努メシモ「ルオット」方面ニテハ二月三日通信杜絶狀況不明ナルモ殆ド全滅シ同島ハ攻略セラレタリ

(3) 「クエゼリン」本島方面ニ於テハ第一次上陸ノ敵ヲ撃退セシモ敵ハ再ビ猛烈ナル艦砲射撃並ニ爆撃ヲ以テ強引ニ攻撃ヲ反覆シ二月六日ニ至リ之ヲ占領ス茲ニ於テ「マーシャル」方面ニ於ケル我

ガ作戦根據ハ諸般ノ關係上海空ヨリスル支援伴ハズ孤立作戦ヲ遂行シツツ遂ニ壊滅スルニ至レリ

第八節　「ブラウン」「トラック」附近ノ作戦

(一)作戦前一般ノ狀況

(1) 曩ニ「クエゼリン」島ニ上陸セシ敵ハ鋭意基地ノ設定ヲ促進シツツ「マーシャル」群島ノ各島ニ對シ依然連日二、三十機乃至四、五十機ノ空襲ヲ加フル所アリ

(2) 南東方面ニ於ケル敵ハ一ハ「ダンビール」海峡ヲ突破シ他ハ「ブーゲルビル」島ニ迫リ更ニ西北進ヲ續行シアリ「ラバウル」ハ連日一〇〇～二〇〇機ノ爆撃ヲ受ク

(3) 中部太平洋方面ニ於ケル敵潜水艦ノ活動ハ十二月、一時低下セシモ「マーシャル」方面ニ對スル敵ノ策動開始ト相俟チテ一月下旬以來漸次活潑ノ度ヲ加ヘタリ

(4) 二月初旬ニ於ケル東「カロリン」方面陸軍部隊ノ配置左ノ如シ

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

島名	部隊	摘要
「ブラウエン」	1kk（Ⅱ、p 欠）	1月 44年到著
「クサイ」	10i 2Si（Ⅱ、Ⅲ Tk、MA、S 欠）	11月 43年到著　1月 44年到著
「ポナペ」	Ⅱ 3Si MA Tk S／107i	1月 44年到著　Ⅱハ9月 43年其ノ他 1月 44年
「モートロック」	4Si	1月 44年到著
「トラワク」	69i Ⅲ／(-Ⅱ) 150i 52D 前谷部	150i 主力 Ⅱ／69i ハ一月内地出発追及中ナリ　1月 44年到著　水曜島ニアリ　12月 43年到著　夏島ニアリ　春島ニアリ
備考	kk ハ海上機動旅團 Si ハ陸洋支隊ヲ示ス	

二五

【二】作戦經過ノ概要（二月十七日ー二月二十四日）

二六

(1) 二月十五日以來「トラック」方面ニ於テハ敵ノ策動近キヲ豫察セシムルモノアリシガ二月十七日、四ー六群ノ機動部隊（谷群ハ航母二ー三、輕艦一又ハ巡洋艦二ー四）ハ「トラック」島東方一〇〇ー二〇〇浬ノ洋上ニ近接シ同日未明ヨリ其ノ艦載機ヲ以テ主トシテ在泊艦艇、飛行場等ニ對シ空襲ヲ開始シ十八日正午過ニ至ル間反覆攻撃ヲ續行セリ

所在ノ我ガ陸海軍部隊ハ直チニ航空機及艦艇地上對空火器ノ全力ヲ擧ゲテ之ヲ邀撃ス

(2) 當時第五十驅逐隊長ノ指揮セル第五十二師團第二次輸送部隊ハ「オロール」諸島附近ニ於テ飛行機及潜水艦ノ攻撃ヲ受ケ輸送船二隻ヲ失ヒシモ敢闘克ク殘餘ヲ以テ二月十八日「トラック」島ニ上陸セリ

(3) 敵ハ「トラック」島ニ於ケル我ガ航空部隊ノ活動ヲ封殺スルヤ直

裏面白紙

19

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

チニ「ブラウエン」島ニ上陸ヲ開始セリ當時海上機動第一旅團ハ上陸後日向淺ク防備施設ナキ孤島ニ於テ力戰抗爭スルコト七日ニ及ビ二月二十四日通信杜絶終ニ殆ド全滅シタルモノノ如シ

第三章　第三十一軍ノ統帥發動及兵力增加

第二節　一九四四年（昭和十九年）初頭ニ於ケル一般情勢

(一)「エユーギニヤ」方面ニ於テハ「ダンビール」海峽ヲ突破セル敵ハ一月上旬「グンビー」岬附近ニ上陸シ第十八軍ハ其ノ中腹ヲ遮斷セラル

獨方面ノ敵ハ我ガ海軍空勢力ノ弱化ニ伴ヒ行動神速、作戰期間短縮既躍距離增大ノ趨向ヲ萌セリ

「ソロモン」群島方面ニ於テハ「ブーゲンビル」島「タロキナ」附近ニ基地ヲ獲得セル敵ハ連日「ラバウル」ノ空襲（一日平均一〇〇〇）一二〇〇機ノ晝間爆撃ニ努メツツ二月上旬「グリーン」島ニ上陸スルニ至リ今ヤ「カロリン」群島方面ハ東方ノミナラズ南方ヨリル威力ヲ受クルニ至レリ

北太平洋方面亦昨年末以來敵ノ行動活潑化シ北千島ニ對スル空襲增加ス

中部太平洋方面敵爾後ノ企圖ニ關シテハ未ダ明確ナル判斷資料ニ乏シト雖モ「マーシャル」楔入作戰「トラック」空襲等ヨリ觀察スルニ敵ノ優勢ナル海空勢力ヲ綜合セバ相當放膽ナル躍進的作戰ヲ實行シ得ベシ

灣北方面ヨリ「カロリン」群島ヲ連ヌル新國防圈ニ對シテハ既ニ計畫ニ基キ其ノ一部ノ兵力到著シアルモ全部ノ配備終了セザルノミナラズ防禦施設亦不十分ニシテ未ダ十分ナル防禦態勢ヲ完了シアラズ

我ガ海上輸送困難ノ度ヲ增加シ全作戰地域ニ亘ル損耗（沈沒及損傷共一千二月約三十万屯一月約四十二万屯）ヲ算シ開戰以來ノ最大記錄ヲ示スニ至レリ然ルニ空海護衛兵力微弱ニシテ陸海必死ノ緊急對策ヲ以テ實行中ナル海上護衛對潛警戒海峽及航路點綴諸島ノ掩護施設等其ノ效果發揚ノ期待ハ尚數ケ月後ニアリテ眞ニ重大ナル時機ニ逢著

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

セリ

二、大本營ハ敍上ノ一般ノ戰勢ニ鑑ミ二月下旬初頭別紙第一ノ如ク各方面ヨリ臨時編成ノ派遣隊ヲ抽出增派シテ聯合艦隊司令長官ノ指揮下ニ入レ尙要塞砲兵隊十二隊要塞砲兵一隊ヲ父島要塞司令官ノ隷下ニ入ルト共ニ二月二十五日第三十一軍ノ戰鬪序列（兵力別紙第二）ヲ令シ聯合艦隊司令長官ノ指揮ノ下ニ中部太平洋方面ニ於ケル防備ヲ急遽劃期的ニ增强センコトヲ企圖ス

21

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

別紙第一

中部太平洋方面増加臨時編成派遣隊推進一覽

部隊名	基幹兵力	派遣地	摘要
第一派遣隊	歩四大 砲二大	「サイパン」	
第二派遣隊	歩二大 砲一大	「モートロック」	聯合艦隊司令長官ノ指揮下ニ入ル
第三派遣隊	歩三大 砲一大	「エンターピ」	
第四派遣隊	歩三大 砲一大	「ヤップ」	
第五派遣隊	歩二大 砲一大	「パガン」	
第六派遣隊	歩六大 砲二大	「グアム」	
第七派遣隊	歩二大 砲一大	「メレヨン」	
第八派遣隊	歩三大 砲一大	「トラック」	

備考

一、派遣隊ハ駐東軍ニ於テ編成ス（但シ第八派遣隊ハ朝鮮軍擬任）

二、輸送ハ概ネ三月ヨリ四月上旬ニ亘リテ實施ス

裏面白紙

22

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

別紙第二

第三十一軍戰闘序列発令時ノ兵力

軍司令官　陸軍中將　小畑英良

「トラック」地區集團

集團長　第五十二師團長

第五十二師團

南洋第三支隊

南洋第四支隊

南洋第五支隊

獨立工兵第九聯隊

第二、第三、第七、第八派遣隊、其ノ他

「マリヤナ」地區集團

集團長　第二十九師團長

第二十九師團

獨立山砲第三聯隊

高射砲第二十五聯隊

獨立高射砲第五十二支隊

第一、第五、第六派遣隊

其ノ他

小笠原地區集團

集團長　父島要塞司令官

父島要塞令部隊

其ノ他

「パラオ」地區集團

集團長　第三十五師團長

第三十五師團

其ノ他

裏面白紙

23

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

(三)當時中部太平洋ニ根據ヲ有セシ聯合艦隊ハ潜艇ノ情勢上其ノ根據地ヲ後退スルノ止ムナキニ至リ第三十一軍ノ編成ト共ニ海軍部隊ハ中部太平洋方面艦隊ヲ新設シ同方面全般ノ作戦ヲ統一セシメタリ

第二節　第三十一軍統帥ノ發動

(一)軍司令官ハ一九四四年三月十日零時「サイパン」島ニ於テ中部太平洋諸島部隊ヲ掌握シ各々其ノ擔任要域ヲ確保スベキヲ命令セリ

(二)而シテ大本營ハ三月末「ニューギニヤ」方面ノ戦況ニ鑑ミ「パラオ」進出課定ノ第三十五師團ヲ「マノクワリ」「ビアク」「ヌンホル」地區ニ急速ニ配置スル爲四月同部隊ヲ第三十一軍戦闘序列ヨリ除キ新ニ第十四師團第九派遣隊（共ニ在滿洲）及第四十三師團（内地）ヲ新ニ第三十一軍戦闘序列ニ入ラシメタリ

(三)軍司令官ハ第十四師團長ヲ「パラオ」地區集團長トシ又第四十三師團ノ進出ト共ニ第二十九師團長ヲ南部「マリヤナ」地區集團長ニ第四十三師團長ヲ北部「マリヤナ」地區集團長トシテ夫々其ノ要域確保ニ任ゼシムリ如ク部署セリ

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第三節　第三十一軍防備計畫ノ梗概

第一　方針

一、軍ハ隨時敵ノ來攻ヲ豫期シツツ諸部隊ヲ神速ニ展開シ先ヅ小笠原「マリヤナ」及「トラック」ヘ「ポナペ」（含ム）以西、「メレヨン」（含ム）以東ヲ含ム）各地區次デ「パラオ」（「ヤップ」周邊及「アンガウル」ヲ含ム）地區ニ於ケル防備基礎態勢ヲ速急ニ確立ス

二、諸隊逐次展開セバ防備築城ヲ擴充シテ敵上陸部隊ヲ水際ニ於テ撃滅スベキ態勢ヲ堅ヘ逐次之ヲ要塞化シ以テ航空基地群ノ確保ヲ期ス

之ガ爲先ヅ諸隊來著後速クモ一月以内ニ野戰陣地ヲ完成シ爾後ナルベク速カニ要部ハ之ヲ永久築城化シ、上陸後概ネ三月以内ニ特火點ヲ骨幹トスル堅固ナル野戰陣地ヲ完成ス

三、防備基礎態勢ノ構成ニ方リテハ所在海軍ノ諸施設ヲ勘案シ密ニ之ト連繫統一ヲ圖リ以テ統合戰力ノ發揮ニ遺憾ナカラシム

第二　展開及作戰準備

四、軍諸隊輸送ノ概要附表第一ノ如シ

五、軍兵力配置ノ豫定附表第二ノ如シ

六、既ニ進駐セル部隊ハ愈々防備ヲ增強シテ要域ヲ確保シ、以テ軍後續兵團ノ展開ヲ掩護ス

七、進駐部隊ノ輸送ハ港灣出發以後隨時會敵ヲ豫期シ且、遭遇戰的ニ上陸作戰ヲ實施シ得ベキ準備ヲ完整ス

上陸作戰生起ノ場合之ガ作戰指導ハ臨機指示ス

八、進駐部隊ハ所在陸海軍部隊ト密ニ協同シ將校以下全員晝夜兼行先ヅ速カニ船舶及揚陸地ヲ偵察シ引續キ、分散、遮蔽、掩體ノ措置ヲ强行シ以テ敵ノ空爆ニ即應スルモノトス

各島嶼ニ於ケル最高指揮官ハ特ニ本作業ノ處理ニ關シ責ニ任ズルモノトス

九、諸隊揚陸セバ引續キ速カニ要點ニ於ケル陣地ヲ占領シ隨時敵ノ上陸ヲ水際ニ撃滅スベキ態勢ヲ確立ス

裏面白紙

25

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

此ノ際當初兵力ノ關係上止ムヲ得ザルモノハ別ニ島内要域ニ複郭陣地ヲ準備シ以テ假令敵ノ一部ノ上陸ヲ許ス場合ト雖モ克ク我ガ航空基地ヲ確保シ又ハ敵ノ之ガ利用ヲ阻止抑制シツツ後續部隊上陸作戰ノ支援ヲ確保スルモノトス

七、施設ハ築城、通信、軍需品及舟艇ノ收容等トシ居住施設ハ戰鬪準備ニ支障ナキ限リ所在既設家屋等ノ利用ハ之ヲ許スモ新設ハ當分ノ間行ハズ

施設ノ主眼ハ敵ノ熾烈ナル砲爆撃ニ對シ安全ナル如ク其ノ位置强度ヲ考慮シ且分散、遮蔽、偽裝ニ徹底スルニ在リ

尚軍需品ノ收容ニ方リテハ蒸地氣象ニ基ク變敗、機能障害防止ニ遺憾ナカラシム

八、諸隊ハ萬難ヲ排シ現地現況ニ即應スル訓練ヲ勵行シテ速カニ鞏固ナル團結ヲ固成シ且各級指揮官ノ指揮統御力ヲ向上セシメ以テ形而上下ノ戰力ヲ充溢シ全軍眞ニ待ツ有ルヲ恃ムノ境地ニ到達スルヲ期ス

三七

各地區集團長ハ差當リ歩兵一大隊基幹兵力ノ海上機動訓練ヲ速カニ實施スルモノトス

其ノ他教育訓練ニ關スル要綱ハ別ニ之ヲ定ム

九、作戰準備ノ實施ニ方リテハ所在海軍部隊ト密ニ協同連繫シ特ニ航空基地ノ設定ニ關シテハ前記施設作業ノ一部ヲ犧牲トスルモ全幅的ニ之ヲ支援ス

又所在ノ資材勞力ノ戰力化ニ關シテハ有ユル手段ヲ盡シテ之ヲ斷行ス

十、陸海軍間ノ諸關係ハ「中部太平洋方面作戰行動ニ關スル陸海軍中央協定」ニ基ク別紙第二「中部太平洋方面艦隊陸上作戰ニ關スル防備統一要領」ニ據ルノ外常ニ大局的見地ヨリ相互提携協調ノ圓滿ヲ期ス

第三　爾後ノ作戰指導ノ大綱

一、軍作戰指導ノ根本ハ中部太平洋ニ於ケル要域特ニ航空基地群ヲ確保シテ我ガ航空部隊ヲシテ敵來攻部隊ヲ洋上ニ殲滅セシメ且敵ニ航空

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

基地ヲ奪ヘザルヲ先決條件トシ次デ敵攻略部隊ヲ水際ニ於テ撃滅スルニ在リ

十六 航空基地ノ確保ニ方リテハ既設及豫定飛行場ヲ含ム島嶼ノミナラズ飛行場タリ得ベキ島嶼ハ兵力之ヲ許ス限リ之ヲ確保シ少クモ敵ヲシテ之ヲ利用セシメザル如ク工夫努力ス

十七 敵攻略部隊ニ對スル作戰ハ陸海軍島嶼守備部隊ノ戰力ヲ統合シ敵ヲ水際ニ於テ撃滅ヲ期ス

之ガ爲各島嶼ノ防備ヲ不落ノ要塞化スルト共ニ環礁内各島嶼、地區集團内各島嶼及各地區集團相互間ニ於テ海上機動作戰ヲ敢行シ又島嶼周邊ニ於テハ爲シ得ル限リ一部兵力ノ海上出撃ヲモ敢行シ以テ敵ノ上陸準備劃ヲ奇襲スル等防禦作戰（戰鬪）ヲ潑剌積極的ニ指導ス又跳梁スル敵機ニ對シテハ有ユル有效火器ヲ擧ゲテ豫メ準備セル對空射撃陣地（施設）ヲ以テ之ガ必撃ヲ期ス

十八 「トラック」地區集團長ハ「ポナペ」（含ム）以西「メレヨン」（含ム）以東ノ地區ノ「カロリン」群島ノ要域ヲ確保ス

其ノ作戰指導ノ大綱ハ左記ニ據ルモノトス

1 「トラック」諸島

「トラック」地區ニ於ケル中核的航空基地トシテ之ヲ絶對ニ確保スル爲止ムヲ得ザル場合ニ於テモ敵ヲシテ之ヲ其ノ海軍基地タラシメザル爲最後マデ之ヲ死守ス

之ガ爲各島嶼相互ノ支援協力ヲ有機的ニ按配シ且環礁内ヲ制壓シテ兵力機動ノ自由ヲ確保シツツ少クモ四季諸島ハ最モ堅固ニ要塞化ス

2 「モートロック」「エンダービー」

共ニ「トラック」諸島ヲ核心トスル航空基地群ノ一環トシテ之ヲ堅固ニ守備シ以テ「トラック」諸島ノ確保ニ資ス「トラック」諸島ヨリ兩島ニ對スル一部兵力ノ海上機動ヲ準備ス

3 「ポナペ」

裏面白紙

27

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

概ネ現有兵力ヲ以テ要地ヲ堅固ニ占領シ前進作戰基地トシテ之ヲ堅固ニ守備ス

4 「メレヨン」

「トラック」航空基地群ノ一環トシ又狀況ニ依リ單獨航空基地群トシテ極度重大ナルニ鑑ミ「トラック」「パラオ」兩諸島ヲ連ヌル本防禦線上ノ要域トシテ堅固ニ守備ス特ニ各種火砲ヲ活用シテ谷島嶼ノ相互支援ヲ組織的ナラシメ且環礁內ヲ制壓シテ以テ礁內機動ノ自由ヲ確保ス

大南部「マリヤナ」地區集團長ハ「ロタ」（含ム）以南ノ「マリヤナ」群島ノ要域ヲ確保ス而シテ本地區ハ北部「マリヤナ」地區及小笠原地區ト相俟チ帝國本土防衛ノ最後的陣地トシテ絶對之ヲ死守ス其ノ作戰指導ノ大綱ハ左記ニ據ルモノトス

1 「グアム」島

主要ナル航空基地トシテ絶對ニ之ヲ確保スル如ク堅固ニ之ヲ要塞

化ス

海上機動兵力ヲ保持シテ「ロタ」島ニ對スル作戰ヲ準備ス

2 「ロタ」島

「グアム」島「テニアン」兩航空基地ノ一環トシテ有力ナル一部ヲ以テ之ヲ確保ス

大北部「マリヤナ」地區集團長ハ「テニヤン」（含ム）以北ノ「マリヤナ」群島ノ要域ヲ確保ス而シテ本地區ハ南部「マリヤナ」地區及小笠原地區ト相俟チ帝國本土防衛ノ最後的陣地トシテ之ヲ死守ス其ノ作戰指導ノ大綱ハ左記ニ據ルモノトス

1 「テニヤン」及「サイパン」

兩島ハ重要ナル航空基地群トシテ特ニ相互密接ニ支援協力シ得ル如ク之ヲ要塞化シ確保ス

海上機動兵力ヲ保持シテ兩島相互支援作戰ヲ行フト共ニ「パガン」島方面ニ對スル作戰ヲ準備ス

28

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

2「パカン」島
「サイパン」「テニヤン」航空基地群ノ一環就中小笠原地區集團長速ニ基地トシテ最モ堅固ニ守備シ之ヲ確保ス

二十、小笠原地區集團長ハ小笠原諸島ヲ確保ス
其ノ作戰指導ノ大綱左記ニ據ルモノトス
1 硫黄島
小笠原地區ニ於ケル重要航空基地トシテ絶對之ヲ確保スル如ク要塞化ス
2 父島
硫黄島ニ次グ航空基地トシテ之ヲ確保スル如ク既設要塞施設ヲ強化ス
爲シ得ル限リ海上機動兵力ヲ保持シテ他島嶼ニ對スル作戰ヲ準備ス
3 母島、聟島

差當リ敵ノ利用ヲ阻止スル如ク所要ノ一部兵力ヲ配備ス

二十一、「パラオ」地區集團長ハ「パラオ」群島（「アンガウル」含ム）及「ヤップ」島方面ノ要域ヲ確保ス
其ノ作戰指導ノ大綱左記ニ據ルモノトス
1「パラオ」群島
本群島ハ敵ノ企圖スル太平洋突破作戰ヲ阻止スベキ最後陣地トシテ絶對確保スルモノトス、而シテ「ペリリュー」及「アンガウル」兩島ハ重要航空基地トシテ確保スル如ク要塞化ス
一部兵力ヲ以テ「パラオ」本島ニ配置シテ其ノ要點特ニ飛行場ヲ確保スルト共ニ「ペリリュー」「アンガウル」及「ヤップ」方面ニ對スル海上機動作戰ヲ準備ス
2「ヤップ」島
「パラオ」航空基地群ノ一環トシ且「メレヨン」ニ對スル第二線陣地トシテ之ヲ堅固ニ守備ス

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

二十五 各地區集團長ハ配兵ノ豫定ナキ諸島ニ對シ速カニ調査ヲ行ヒ敵ヲ利用特ニ飛行場並ニ諜報謀略基地タリ得ベキ島嶼ニ對シテハ一部ノ配兵又ハ陸戰ノ手段ヲ講ズルモノトス

二十六 防衛基礎施設完整後ニ於ケル島ノ作戰計畫ニ關シテハ追テ之ヲ策定ス

第四 築城

二十七 築城施設ハ敵ノ上陸企圖ヲ水際ニ壓減スル爲ノ陣地（對空射撃施設ヲ附加ス）及熾烈ナル砲爆撃ニ對シ人員資材ノ被害ヲ局限スルノ施設ヲ先ヅ應急的ニ構築シ爾後速急ニ之ヲ補備增強スルト共ニ陣地ノ縱深及素質ノ强度ヲ增加シ逐次難攻不落ノ島嶼要塞タラシム

軍築城計畫ハ別ニ之ヲ策定ス

築城施設ノ細部ハ別冊「築城施設要領」ニ據ル

第五 防空警備

二十八 防空警報ノ發令（解除）ハ各島嶼所在海軍部隊最高指揮官之ヲ擔任シ陸軍部隊ハ之ニ基キ發令（解除）ス

四五

之ガ傳達ニ關シテハ各島嶼毎ニ海軍部隊ト協定シ速達ヲ圖ルモノトス

四六

二十九 民防空ノ指導ハ各島嶼所在海軍部隊最高指揮官之ニ任ズルヲ本則トス

三十 島嶼全域特ニ飛行場ノ對空防禦ハ海軍ノ擔任トスルモ陸軍防空部隊ヲ配置セル島嶼ハ所在海軍防空部隊ト協同シ爲シ得レバ統一指揮ニ依リ該島嶼防禦ノ統合威力發揮ニ遺憾ナカラシム

三十一 司令部、本部及主要通信施設ハ熾烈ナル砲爆撃下ニ於テモ常時任務遂行ニ支障ナカラシムル如ク堅固ナル掩蔽部ヲ築設ス

爾他ノ人員ニ就キテハ個人用防空壕ヲ完備ス

三十二 戰備ノ度ヲ左ノ如ク分ツ

1 第一戰備

敵ノ來攻ヲ豫知シタル場合ニシテ守兵ヲ陣地ニ就カシメ戰備ヲ完

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

整スルモノトス

2 第二戦備

襲ノ虞アル場合ニシテ警備ヲ厳ニシ守兵ハ隨時陣地ニ就キ得ル
ノ準備ヲ整ヘ防空部隊ハ戦備ヲ完整スルモノトス

3 第三戦備

情況比較的切迫セザル場合ニシテ防空部隊ハ所要ノ待機姿勢ニ在
リテ爾他ノ諸隊ハ一部警戒ノ部署ヲ執ルモノトス

以上ノ如キ概要ヲ規定スルモ各地區集團長ハ現地海軍部隊ノ現行警
戒規定ヲ參酌シ現況ニ適スル如ク細部ヲ規定スルモノトス

戦備ノ發令ハ各島嶼（環礁内ハ一島嶼ト看做ス）ノ陸上防備ニ任ズ
ル陸海軍最高指揮官機宜之ヲ行フ

又一般ニ對空戦備ハ天明一時間前ニ完整ス

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

別紙

築城施設要領

一 陣地ノ編成施設要領

1 水際防禦陣地

(イ) 敵ノ上陸容易ナル正面ニ在リテハ直接水際ニ歩兵一中隊乃至一小隊ヲ基幹トスル兵力ヲ以テ獨立性アル支點ヲ數百米乃至一粁毎ニ配置シ重火器ノ大部ハ支點内ヨリ比隣支點前及其ノ中間地ヲ側防シ又輕機重擲及小銃ハ主トシテ正面射斜射ニ依リ當初其ノ中間地ニ火網ノ構成ニ任ジ敵ノ壓迫ヲ受クルニ至ルモ支點四周火網構成ニ任ジ逆襲ノ支撐トナル右重火器ノ側防火點ハ地形地物ヲ巧ニ利用シ敵機及敵艦砲射擊ニ掩蔽セル位置ヲ選定シ勉メテ其ノ耐彈强度ヲ大ナラシムルト共ニ狀況ノ變化ニ即應シ得ル如ク數個ノ陣地ヲ準備ス

支點據點ノ周圍ニハ對戰車壕ヲ設ケ特ニ獨立性ヲ强化スルヲ緊要トス

(ロ) 支點ノ中間地ニハ所要ニ應ジ夜間直接配備ノ陣地及逆襲ノ據點

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

或ハ敵火力毀損ノ爲偽特火點等ヲ設ク

(ハ)水際陣地ノ後方ニ地形ヲ利用シ第二線中間陣地ヲ設ケ水際陣地ノ局部的破綻ノ擴大ヲ阻止シ且豫備隊反擊ノ據點タラシム

其ノ編成施設要領ハ水際陣地ニ達スルモ特ニ重火器ノ大部ヲ以テ陣地前ヨリ水際ニ至ル間ニ急襲的集中火力ノ發揚シ得ル如ク多數ノ陣地及堅固ナル掩砲（銃）所ヲ設ケ且反擊ノ爲ノ機動路ヲ整備ス

又其ノ間隙及縱深ニ多數ノ偽陣地偽工事ヲ設ケ敵ヲシテ我ガ配備ヲ誤認セシメ且火力ヲ分散消耗セシム

(ニ)斷崖、地障、海象等ノ爲上陸ヲ制限セラルル正面ニアリテハ其ノ正面幅及上陸ノ難易ノ度ニヨリ一小隊乃至一分隊ノ兵力ヲ以テ直接水際ニ支點ヲ構築シテ敵ノ上陸ヲ阻止シ狀況ニヨリテハ監視兵ヲ配置シテ監視ノミニ止メ主力ヲ後方ニ待機セシメ機動進出ノ設備ヲ完備スルト共ニ多數偽陣地ヲ設ケ守備堅固ナル如

ク欺騙ス

(ホ)砲兵ハ主トシテ斜射側射ヲ以テ水際附近ニ火力ヲ指向シ敵ノ舟艇戰車ノ擊攻ニ觸ムルト共ニ水際陣地ノ一部ノ破綻ニ際シ同所ニ火力ヲ集中シ得ル如ク使用スル

舟艇ノ進攻ヲ遮斷セシムル環礁ノ要所ニハ豫メ火力配置スルヲ要ス

之ガ爲大部ノ火器ハ水際支點及第二線陣地内ニ在リテ地形ヲ利用シ上陸及艦砲射擊ニ秘匿セル位置ニ堅固ナル側防火點ヲ設ケ又一部ノ火器ハ堅固ナル掩砲（銃）所ヲ中心トシ之ヨリ進出入容易ナル位置ニ多數ノ陣地ヲ準備シ敵火ニヨル損害ヲ避クルト共ニ偽陣地、偽砲臺ヲ設ケ敵火ヲ分散セシム

正面射ニ任ズル火砲ハ短切ナル急襲射ヲ實施スルガ若ハ屢々陣地ヲ變換ス

(ヘ)海軍ノ平射砲ハ上陸前ニ豫定セラルル敵ノ艦擊及射程外ヨリノ

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

砲射撃ニヨリ破壊側壁ヲ免ルル爲主トシテ側防的ニ使用シ直接水際戰闘ニ任ズ之ガ爲敵眼特ニ砲撃ニ掩蔽セル地形ヲ選ビ側防用陣地ヲ準備ス

但シ輸送船撃滅ニ任ズル一部ノ火砲及特ニ必要ナル正面ニアリテ正面射用及射界障地ヲ設クル場合ハ特ニ上空及海正面ニ對スル偽裝及掩護ヲ十分ナラシム

尚既設ノ砲臺ニシテ砲塞蓋ニ對シ脆弱ナルモノニアリテハ右ノ方針ニ基キ逐次改修ス

(ト) 水際ニハ取敢ヘズ小型機雷、地雷等敷設ノ準備ヲナスモ陣地ノ構成ニ伴ヒ速カニ各種水際及水中障碍物ヲ設置シ又各支點ノ周圍及間隙ニハ對人對戰車用障碍物ヲ地形ヲ利用シテ構築シ逐次其ノ強度ヲ大ナラシム

但シ空爆等ニ依ル障碍清掃ニ對シ設置時期ニツキテハ考慮ヲ要ス

2 防空陣地

高射砲及高射機關砲（銃）ハ飛行場、港灣及陣地要部ノ防空ニ重點的ニ集中使用シ且重要部ハ高空ヨリ低空ニ亘ル間ニ間隙ナク火力ヲ配置セシムル外爲シ得ル限リ水上及陸上戰闘ニ參加シ得ル如ク陣地ヲ占領ス

又移動性ヲ有スル火器ニ在リテハ多數ノ陣地ニ準備シ射撃位置ノ移動ニヨリ敵火ニヨル損害ヲ避クルニ勉ム

地上戰闘ヲ主トスル重輕機ハ敵襲ニシテ低空ニ暴威ヲ逞シクスル場合對空射撃ニ任ジ得ル如ク數個ノ對空用掩體ヲ附近ニ準備ス

3 後方陣地（複郭）

各地區隊ハ狀況眞ニ止ムヲ得ザル場合ト雖モ敵ヲシテ飛行場利用ヲ阻止シ得ベキ地區内要點ヲ確保シテ敵ノ利用ヲ阻止シ後方部隊ノ反擊ト相俟チ一擊ニ敵ヲ壊滅スル爲時日之ヲ許スニ至レバ後方陣地ヲ準備ス

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

其ノ編成要領ハ特ニ獨立性ヲ强化シ且反撃ノ爲メノ施設ヲ完備セシム

4 被害局限ノ應急施設要領

人員、兵器、彈藥、物資等ハ敵ノ熾烈ナル砲爆撃ニ對シ徹底的ニ被害局限ノ施設ヲ講ジ以テ戰力ノ消耗ヲ避ク之ガ爲速カニ左ノ處置ヲ講ズ

(イ) 人員ハ總員ニ應ズル防空壕（掩蔽部）ヲ準備スル外主要ナル交通路及多人數集中スル場所ニハ適宜所要ノ防空壕ヲ施設標示ス

(ロ) 水際及敵方ニ暴露スル陣地ニ在リテハ敵ノ砲爆撃間無益ノ損害ヲ避クル爲附近ノ地形地物ヲ利用シ掩蔽セル個所ニ待避用掩蔽部（掩壕）ヲ設ケ人員及稼動性火器ハ之ヲ待避セシメ敵ノ上陸ニ際シ機ヲ失セズ陣地ニ就キ得ル如ク監視及交通設備ヲ完備ス

(ハ) 火器、車輌、機械、器具類ハ敵火ニ掩蔽セル個所ヲ選ビ分散配置シ逐次掩壕及掩蔽部ヲ設ケテ之ヲ收容ス

(ニ) 彈藥、糧秣、燃料、被服其ノ他軍需品ハ概ネ其ノ三分ノ二ヲ主陣地帶附近ニ殘リノ三分ノ一ヲ後方陣地内ニ於テ敵火ニ掩蔽セル個所ヲ選ビ取敢ヘズ分散配置シ逐次掩壕若クハ掩蔽部ヲ設ケテ防護ヲ確實ナラシム

(ホ) 資材ノ一個所ノ集積量ハ勉メテ一〇立方米以下ニ止メ相互ノ最小分散距離ハ彈藥、燃料ニ在リテハ一〇〇米其ノ他ニ在リテハ五〇米トス

(ヘ) 地上木造家屋ハ砲撃ニ對シ容易ニ破壞燒夷セラレ易キニヨリ勉メテ之ガ利用ヲ禁クルヲ要ス

上陸當初雨露ヲ凌ク爲一時的ニ使用スル場合ト雖モ速カニ他ニ分散格納ノ處置ヲナシ之ヲ移スモノトス

(ト) 資材ノ分散格納ニ方リ特ニ防濕通風ヲ考慮シ損廢ヲ防止ス

二、築城施設ノ程度及築城素質

1 築城施設ハ敵火ニ依ル被害狀況ノ變化ニ對スル即應竝ニ縱深ニ亘

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ル陣地ニヨル戰彈ナル戰鬪ヲ考慮シ勉メテ多數ヲ準備スルモノトス之ガ爲所要築城量ハ一般ノ標準ニ比シ部隊數ノ數倍ニ及ビ、個個ノ火器掩體掩蔽部其ノ他ノ素質モ亦數倍シ此ノ外多數ノ僞地僞工事ヲ設クルモノトス

2 應急的水際防禦ノ陣地ハ差當リ輕易ナルモノヲ主トシ分散秘蔽ニ依リ被害ノ減少ニ勉ムルモ陣地ノ骨幹タル側防火器ノ掩體掩砲（銃）所指揮所等ハ其ノ彈度ヲ勉メテ大ナラシム

3 築城素質ハ野戰築城教範ニ據リ實施スルモ現地ニ於ケル岩窟、斷崖、急斜面等ヲ最大限ニ利用シ資材勞力ノ節約彈度ノ增加ヲ圖ル

4 永久築城資材ヲ利用シ得ルニ至レバ重要ナル火器ノ掩體、掩蔽部指揮所及通信所等ハ逐次彈度大ナル永久築城トナシ又地形地質之ヲ許セバ火藥ヲ使用シ岩盤部ヲ鑿岩シ洞窟式掩蔽部ヲ多數急造準備スルヲ可トス

永久築城素質ニ關シテハ別ニ之ヲ示ス

三、工事ノ實施要領

1 各地區守備隊ハ上陸後直チニ當該地區ノ作業ニ著手シ一週間以內ニ水際防禦陣地及被害局限施設ヲ概成シ一ケ月以內ニ野戰陣地ヲ完成シ二ケ月以內ニ特火點ヲ有スル堅固ナル野戰陣地ヲ完成シ爾後逐次補強強化シ之ヲ要塞化ス之ガ爲部隊ハ露營ヲ主トシ全力ヲ擧ケテ陣地構築ニ任ジ居住施設ハ特ニ之ヲ行ハザルヲ本則トス

2 築城實施ニ當リテハ各地區ニ築城係將校以下ヲ設ケ全般ノ計畫統制資材ノ整備配當等ニ任ゼシム

3 築城實施ニ當リテハ常時應戰ノ態勢ニ遺憾ナカラシムルガ如ク其ノ方法緩急順序ヲ律スルモノトス

4 工事ノ實施ニ當リテハ上空及海正面ニ對シ遮蔽秘匿ニ勉メ不必要ニ樹木ヲ伐採スルコトナク且ツ運搬路、材料ノ集積位置、除積土面等ノ僞裝遮蔽ニ遺憾ナカラシム

四、築城用資材

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

應急的築城資材ハ現地資材ヲ活用スルヲ本則トシ特種ノ資材ハ別ニ交付ス

永久築城資材ノ配置ニ關シテハ別ニ示ス

築城ノ結果ハ時々空中及海上ヨリ視察シ其ノ適否ヲ檢ス

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

別表第一

中部太平洋方面艦隊陸上作戦ニ關スル防備統一要領

一、第三十一軍司令官ノ確保スヘキ諸島ニ於ケル海陸軍部隊ノ陸上作戦（防空及航空作戦關係ヲ除ク）ニ關スル防備ノ計畫及準備ニ關シテハ第三十一軍司令官其ノ統一ニ任ス

二、「マリアナ」諸島東「カロリン」諸島（「メレヨン」以東「ポナペ」以西ノ諸島嶼）西「カロリン」諸島（「ヤップ」「アンガウル」ヲ含ム）及小笠原諸島ニ於ケル陸海軍部隊ノ陸上作戦ニ關スル防備ノ計畫並ニ準備ハ地區果敢長其ノ統一ニ任ス

三、各島嶼ノ陸上作戦ニ關スル防備ハ當該島嶼先任海陸軍指揮官（航空部隊指揮官ヲ除ク）乙カ統一指揮ニ任ス

而シテ環礁内島嶼群ハ一ノ島嶼ト見做スルモノトス

三、本要領ニ於テ陸上作戦ニ關スル防備トハ陸上戦闘近戦砲撃射撃及之ニ伴フ諸行動（配備築城障碍物ノ設置見張通信）ヲ謂ヒ航空作戦上必要ナル航空部隊ノ行動防空關係事項ヲ含マス

輸送及補給

一、第三十一軍派遣輸送（部隊ノ同時ニ携行スル軍需品及資材（少クモ三箇月分）ヲ含ム）ハ主トシテ陸軍之ヲ擔任シ爾後ニ於ケル常續補給（補充）輸送ハ海軍之ヲ擔任ス

軍需品ノ揚搭及局地輸送ハ海軍ノ擔任トスルモ陸軍ハ所要ノ機關ヲ派遣シテ之ニ協力ス（陸軍部隊輸送船團ハ所要ノ發動艇及船舶兵ヲ携行シ又碇泊場司令部ヲ主要港灣ニ配置スル等）

揚搭業務ハ陸海軍揚陸作業機關ノ全能ヲ傾ケテ之ヲ實施ス

陸軍部隊所要軍需品及資材ノ整備補給ハ海軍ノ擔任トス

但シ兵器（燃料ヲ除ク）被服及陸軍特有ノ其ノ他ノ軍需品ノ整備ハ陸軍ノ擔任トス

又第三十一軍ニ對スル陸上補給及小笠原地區集團ニ對スル補給ハ陸軍ノ擔任トス

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

以上ニ拘ラス陸軍補給機關ヲ設置シ得サル島嶼ノ陸上補給ハ海軍補給機關ノ擔任トス

第三十一軍ニ對スル補給系統ノ大綱附表ノ如シ

通信連絡

一、陸軍部隊内通信並ニ第三十一軍司令部ト大本營陸軍部及關係隣接陸軍部隊間ノ連絡ハ陸軍ノ通信機關ニ依ルノ外海軍通信機關ヲ利用ス

但シ通信施設障害等ニ際シテハ陸海軍相互融通利用シ又南洋廳通信機關ヲ優先使用ス

二、通信管制ニ關シテハ聯合艦隊及方面艦隊司令長官ノ定ムル處ニ依ル

三、陸軍部隊ハ相互ニ情報ヲ交換ス

四、陸軍部隊ノ指揮連絡等ノ爲所要ニ應シ通信機關飛行機ノ利用等ニ關シ海軍部隊ハ陸軍部隊ニ便宜ヲ供與スルモノトス

五、陸軍部隊相互及部隊内通信ニハ陸軍暗號書ヲ使用ス

陸海軍相互間ハ主トシテ海軍暗號書ヲ使用ス陸軍暗號書ノ運用ニ關

シテハ大本營陸軍部ヨリ直接指示セラル

六、陸軍部隊ノ軍事郵便業務ハ海軍軍事郵便機關ニ依リ處理ス

宿營・築城・衛生

一、海軍部隊ハ陸軍部隊ノ爲宿營・宿營村舎（但シ内地ヨリ後送ヲ行ハス）及築城資材ノ供與ニ關シ便宜ヲ與フルモノトス

二、陸軍衛生機關不足スルカ施設不十分ナル場合所要ノ陸軍患者ヲ海軍機關ニ收療ス此ノ際陸軍部隊ハ必要ナル衛生人員ヲ援助ノ爲派遣スルニ勉ムルモノトス

現地資源ノ徵用

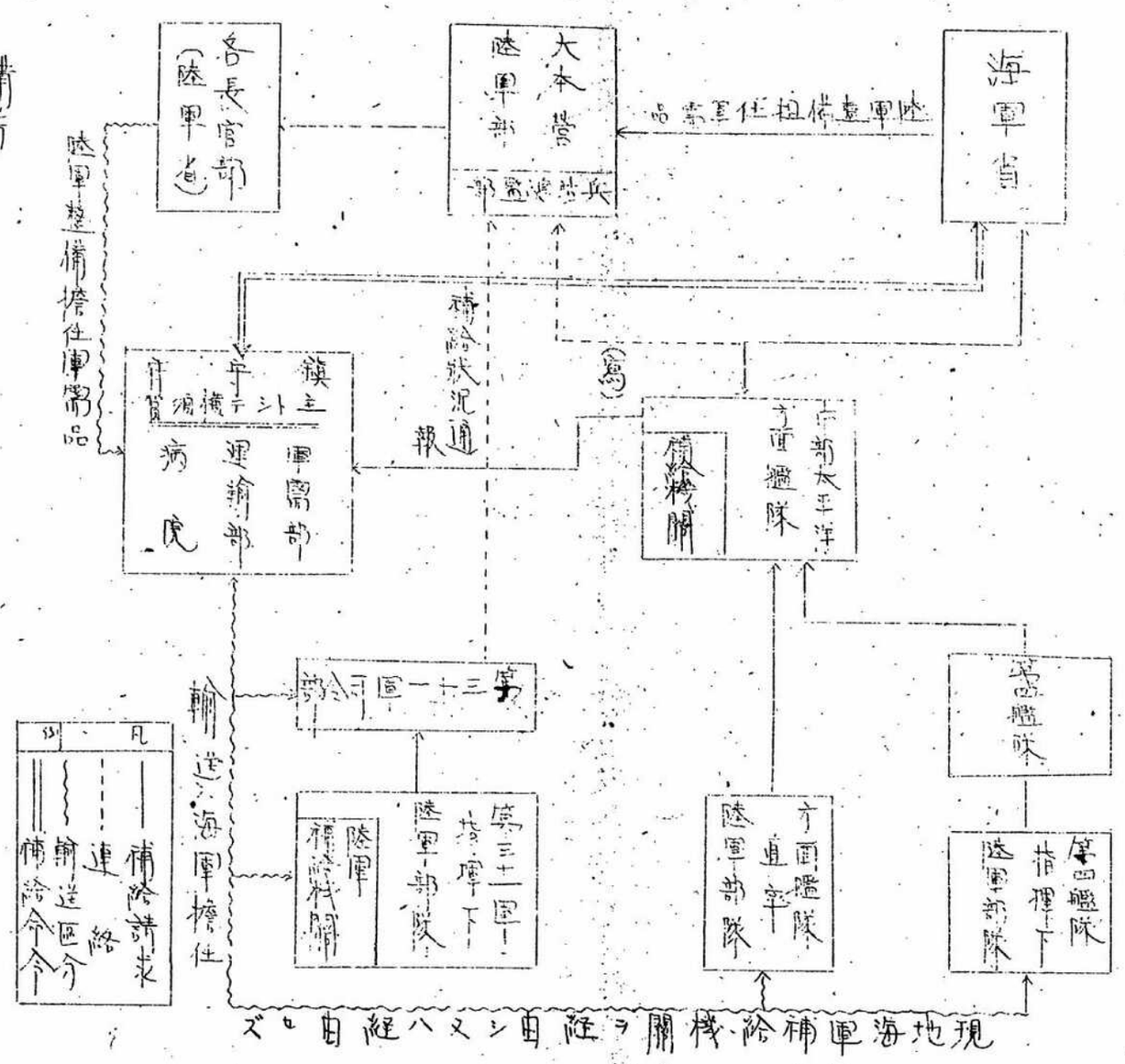
各島ニ於ケル人的物的資源ハ先任海陸軍指揮官又ハ先任指揮官ノ指定スル者統制ス

徵用ハ差當リ徵發令等ノ法規並ニ官民ノ積極的協力ニ依ル

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

中部太平洋方面陸軍部隊ニ對スル補給系統大綱



備考

一 軍需品輸送計畫ハ海軍運輸本部ノ主宰ニ輸送會議ニ於テ之ヲ律ス

二 小笠原地區ニ對スル補給ハ第三十一軍司令官ヨリ直接大本營陸軍部ニ請求シ陸軍ニ於テ擔任ス

40

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

附表第一

第三十一軍諸隊輸送概見表

一九四四年 三月

部隊名	乘船地	乗陸地	備考
31A 司	東京	サイパン	
27D	釜山	主カグアム 一部サイパン	
5Ha	釜山	パガン	
6Ha	釜山	グアム	
14D	釜山	パラオ	
4Ha	釜山	ヤップ	
55i 司	門司	メレヨン	
1Ha	釜山	サイパン	
2Ha	釜山	モートロック	
3Ha	釜山	エンダービー	
7Ha	釜山	メレヨン	
8Ha	釜山	トラック	
9TK	釜山	主カサイパン 一部グアム	
25AA	釜山	主カサイパン 一部〈エモリー ダルロック ビーク〉	
52MA (大)	釜山	主カグアム 一部メレヨン	
42AA 43MA (中)	釜山	パラオ	
45AA (中)	釜山	パガン	
26MA (中)	釜山	父島	
44MA (中)	釜山	サイパン	
264 (中)	釜山	主カパラオ 一部テニアン	
265 (中)	釜山	グアム	
278 (中)	釜山	サイパン	
7Pa	釜山	サイパン	
9Pa	釜山	主カトラック 一部硫黄島	
16Sp	門司	サイパン	
43D	横濱	サイパン	三月以降輸送隊之人
9HA	釜山	パラオ	Ha八派遣隊ヲ示ス

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

附表第二

第三十一軍兵力配置豫定　一九四四年四月

区分	島嶼	隊	概要
北部「マリアナ」地区	サイパン	31A司	
	テニアン	43D 1HA 9TK 3BAs 14SM 17SM 44MA 25AA 7Ps 11AP 6旅	
南部「マリアナ」地区	グアム	29D 6HA 52AA(-) 28SE(-)	
	ロタ		
地区	パガン	5HA	
第四繼隊指揮地区	ハエーキ	南海第三守備隊、又/5IS 1/6TK(-1)	
	ウオッチエ	1SL II/107L II/1KK	四部ハ第四繼隊司令長官ノ命ニヨル
	マロエラップ		
	ミレ		
	ヤルート		
	クサイ	28L I/107L	P29/10ヲ以テ各隊ヲポナペニ移ルモノトス
	ポナペ	38L 107L (I・III欠)	
「トラック」地区	モートロック	45L 2HA	
	トラック	52D (-1HA) 8HA 9Ps (-1) II/25AA 58旅	
	エンダービー	3HA	
軍直	ナレヨン	58L 7HA	
パラオ地区	パラオ	14D 9HA 3TKs(中) 4TKs(中)	
	ヤップ	4HA	
小笠原地区	硫黄島		
	父島	109D 28MA 208M 108M 1中/9Ps	
	母島		
	軍島	145L S 12TAs 3MA(欠)	
	南鳥島	南海第二守備隊、5HA(-I) 1中/16TK	

備考

一本表ノ外重砲兵部隊ヲ「マリアナ」、「トラック」地区ニ配スル豫定

二硫泊場司令部及各地区集團長ノ区劃ニヨリ所要ノ兵力ヲ各島嶼ニ配セリ

三第三十一軍固定通信隊ハ「サイパン」直轄部隊長間ノ連絡ニ任セシム

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第四章　自一九四四年（昭和十九年）春　至一九四四年（昭和十九年）夏　中部太平洋方面作戦

第一節　第三十一軍主力ノ展開

(一)二月下旬「マーシャル」方面ニアリテハ「ブラウン」島南東方面ニ於テハ「アドミラルテイ」島敵手ニ落チ敵ハ「ソロモン」方面ヨリ「ニューギニヤ」北岸ヲ經テ比島方面ニ向フ作戦ト併行シ中部太平洋方面ニ於ケル作戦ヲ強行スヘク其ノ一般方面略案京ヲ目標トスル・ヤノ・ヤ・ケナシトヒス即チ敵ハ中部太平洋ニ於ケル我ガ作戦基地「トラック」島ニ對シテハ「ブラウン」及「アドミラルテイ」兩方面ヨリ連日連夜空襲ヲ續行スル外四月三十日ヨリ五月一日ニ亘リ數群ヨリナル機動部隊（空母二ー四ヲ基幹トス）ヲ以テ再ビ飛行場施設等ニ對シ猛爆ヲ加ヘ來リ我カ基地ノ無力化ヲ企圖シアルカ如ク且之レヨリ先キ三月末空母一〇隻（艦八ヲ基幹トスル機動部隊ハ「パラオ」地區ニ來攻シ「パラオ」島及「メレヨン」島ヲ空襲シ中部太平洋方面一圓ノ戦局ハ遂次緊迫ヲ加フルニ至ル

(二)軍隊下諸部隊ハ前日ノ情況下敵潜水艦等ノ攻撃ヲ受ケ若干ノ損害ヲ蒙リタルモ三月乃至五月ノ間後列部隊ノ大部ハ概不豫定ノ如ク夫々各島嶼ニ到著シ展開ヲ完了セリ

(三)軍隊下各部隊ハ在滿鮮地區ヨリ抽出セラレタルモノ多キヲ以テ軍ハ後列部隊ノ展開完了ニ伴ヒ指揮ノ確立團結ノ鞏化ヲ圖ル爲各派遣隊等ヲ獨立混成旅團（47ー52）及ビ獨立混成聯隊（9ー13）ニ改編セリ

又防衛衛戍等ノ關係上「メレヨン」島部隊ヲ五月廿日「トラック」地區集團長ノ隷下ヨリ除キ直轄トセリ

第二節　「サイパン」島附近ノ作戦（要圖第一參照）

「註」「サイパン」島ヲ中心トスル「マリアナ」方面ノ戦闘ニ關シテハ今ニ至リ生存ニ還者ナク記錄極メテ不備ナリ

(一)作戦前ノ敵ノ狀況

「ニミツツ」ノ指揮スル米中部太平洋方面部隊ノ「メジュロ」「クエ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ゼリン」「ブラウン」等ニ於ケル基地ノ推進ハ殆ド我ガ海空軍ノ防害ヲ顧ルコトナク著々進捗シタルガ如ク一方南東方面ニ於テモ「アドミラルティ」ノ敵航空基地完成ニヨリ「トラック」島ハ亜月以來連日敵ノ空襲ヲ受ケ作戦根據地トシテノ價値ヲ逐次低下シ又五月二十、二十一日ニハ南鳥島ヘ、五月二十四日ニハ「グアム」島ニ機動部隊來襲スルアリ今ヤ敵ノ「マリヤナ」攻ニ「パラオ」方面ニ對スル策動ハ必至ノ情勢トナレリ

(1) 且ハ既ネ為一線部隊ノ展開ヲ終了シ各地區ノ防衛部隊ハ鋭意陣地ノ構築ニ努メツツアリシモ「マリヤナ」地區ニ於テハ輸送上陸ノ關係上南、北兩地區集團部隊混淆シ整理未タ完了セサリシ爲「カロリン」方面ニ比シ防衛工事ノ進捗遲延ノ情況ニ在リ

(2) 當時「サイパン」地區ニ在リシ我陸軍部隊兵力ノ概要左ノ如シ

31D 司令部（直司令官、作戦主任、通信主任、參謀、後方部長ハ「パラオ」地區作戦準備指導ノ爲五月下旬乃至六月上旬「サイパン」島ニハ不在ナリキ）

六、五

43D（一大欠）（海没部隊アリテ實力ハ概ネ五大隊内外）

六、六

47BS

9TK

3BAS

25AA

44MA

7PS

264 独立第一警戒隊

278 兵(甲)

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

其ノ他

人員計　　約三七〇〇〇

(二)作戦經過ノ概要

(1)敵上陸船ノ戦闘（五月二十二日ー六月十四日）

一九四四年五月二十二日敵大型機約十機「サイパン」島ヲ初空襲シ次テ二十九日九機、三十日十二機來襲飛行場及港湾施設ニ對シ投彈セルモ大ナル損害ナシ

六月十一日數群ヨリナル機動部隊各群（航母二ー三、戦艦又ハ巡洋艦二ー四ヲ基幹トス）ハ「グアム」東方一七〇浬附近ニ達シ一二五〇ヨリ一五三〇頃ニ亘リ艦載機延約一九〇機來襲シ翌十二日〇四〇〇頃ヨリ一二〇〇迄四次ニ亘リ延約五〇〇機、十三日〇四〇〇頃ヨリ〇八〇〇頃迄二次ニ亘リ延約二〇〇機ヲ以テ來襲シ主トシテ飛行場、港湾施設、工場、陣地等ヲ爆撃ス人員、兵器、弾薬ニ若干ノ損失アリシモ地上部隊ハ克ク敵襲ヲ撃攘セリ

此ノ間敵ハ十一日「テニアン」ニ百四十機「グアム」島ニ百三十機來襲セリ

六月十三日〇九三〇ヨリ敵ノ戦艦八、巡洋艦三、駆逐艦三〇ハ主力ヲ以テ「サイパン」島西海岸ニ現出一六三〇ニ至ル間海面砲撃ヲ加ヘ市街ノ大部ハ焼失セル模様ニ人員資材ノ損害ハ極微ナリ　敵ハ夜ニ入ルモ時々艦砲射撃ヲ継續ス

六月十四日早朝來戦艦以下約二〇隻ヲ以テ引續キ連續砲撃ヲ實施スルト共ニ敵機ハ我飛行場及防衛施設等ニ對シ熾烈ナル銃爆撃ヲ加フ尚〇七三〇、敵ハ小舟艇ヲ以テ「オレアイ」正面「リしフ」ノ偵察破壊ヲ企圖セリ

(2)水際附近ノ戦闘（六月十五日ー六月十七日）

(イ)敵上陸ノ狀況

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

六月十五日、〇四二〇頃ノ大型輸送船團（二五ー四〇隻）「ガラバン」西方ニ現出シ艦隊ハ昨日ニ引キ續キ砲撃ヲ繼行ス

〇五〇〇頃上陸用舟艇ハ岸約一萬米附近ニテ上陸ヲ準備シ「オレアイ」「チャランカノア」地區ニ左ノ如ク殺倒シ來レリ

第一回（〇七四〇）舟艇一二〇（「アリゲーター」ヲ含ム）三八
第二回（〇九四〇）〃 〃 二五
第三回（〇九五〇）〃 〃 一五
第四回（一〇二〇）〃 〃 一五

爾後逐次「リード」海岸間ヲ輸送ス

(ロ) 上陸防禦

所在ノ我部隊ハ或ハ射撃ト肉迫攻撃トニ依リ海岸附近ニ於テ「アリゲーター」多數ヲ炎上セシメ又飛行機ヲ以テ輸送船ヲ攻撃シB一D一隻沈D二ヲ炎上セシムル等ノ戦果ヲ收メタルモ午後ニ至リ敵ハ終ニ「オレアイ」ー「チャランカノア」間ニ幅約四粁

六九

七〇

縦深約數百米ノ橋頭堡ヲ確保セリ其ノ兵力約二ケ師團ト判斷セラル

車ハ夕刻ヨリ全力ヲ以テ右橋頭堡ニ到シ夜襲シ一擊ニ之レカ殲滅ヲ企圖シタルモ戦車及海上ヨリノ阻止火力ニ依リ目的ヲ貫徹スルニ至ラズ

(ハ) 43Dノ逆襲

六月十六日敵ハ依然艦艇ヲ以テ終日艦砲射撃ヲ實施スルト共ニ飛行機ノ活動ヲ強化シ其ノ掩護下「チャランカノア」西側ニ陽陸ヲ續行ス此間更ニ大型輸送船約十隻「オレアイ」西方海面ニ到著セリ

43Dハ一七〇〇頃ヨリ主力（歩二大隊戦車一聯隊）ヲ以テ「オレアイ」東方ヨリ一部（歩兵一大隊）ヲ以テ「ガラバン」西方ヨリ「オレアイ」ニ地歩ヲ占メタル敵ニ對シ逆襲ヲ實施シ十七日ニ亘リ「オレアイ」東南電信所附近ヨリ敵線ヲ突破シ

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

此ノ間更ニ豫備隊ノ歩兵一大隊ヲ加ヘ「スヌベ」岬ニ向ヒ突進
戦果擴張ニ努メタルカ如キモ爾後終ニ狀況不明トナレリ
「ガラバン」方向ヨリスル261ノ一大隊ノ攻撃ハ成功セサリシモ
ノノ如シ

(二)他島ヨリノ増援

軍ハ十六日夜「グアム」島ノ29Dニ對シ約一個大隊ノ兵力ヲ本夜海
上機動ニヨリ「サイパン」ニ轉用スヘキヲ命スルト共ニ在「ト
ラック」島52Dニ對シ六月十八日約二ケ大隊ノ兵力ヲ「サイパン」
島ニ轉進セシムヘキ電令セリ
前記南部隊ハ前者ニアリテハ行岡少佐歩二中(MG四BA二、TA一LM
六)ヲ指揮シ六月二十一日一七二〇、大發一一、小發二、ニ分
乘先ツ「ロタ」島ニ向ヒ「グアム」島ヲ出發二十二日〇六〇〇
「ロタ」島ニ到著セシモ敵ノ妨害ニ會シ「サイパン」島ヘノ上
陸ハ成功スルニ至ラス後者ハ輸送船僅少ノ關係ヲ以テ遂ニ實現

スルニ至ラス

(3)「ア」號作戦ノ經緯

是ヨリ先五月初頭大本營ニ於テハ「ニミッツ」「マックアーサ
ー」兩攻勢ハ向後更ニ作戦歩調ヲ密ニシ比島ヲ一般目標トシテ進
攻ヲ續ケ我ガ防禦線ノ突破艦隊ノ誘出撃滅本土南方軍ノ遮斷比島
奪回等戦略目的ノ達成ニ努ムヘシ之カ爲中部太平洋方面ニ於テ
ハ進攻島上ノ陣禍タル(四「カロリン」就中「パラオ」「ヤップ」
島ハ次期作戦ノ主對象タルヘク小笠原攻略ニ比シ其ノ算大ナルヘ
シ」トノ判斷ノ下ニ帝國軍就中海軍ハ「現下彼我ノ兵力ノ懸隔甚
シク何レノ方面ニモ敵ノ本格的進攻ニ對處シ難キ狀況ヲ打破シ一
挙戦勢逆轉ノ方策ハ爾他正面ノ悲境ヲ偲ヒテ決戦戦力ヲ整備シ之
ヲ主反攻正面ニ構ヘ敵機動部隊ヲ捕捉シテ以テ全面的反攻ヲ挫折
セシムルヲ要ス」ト爲シ當時整備完了セル第一航空艦隊(基地航
空隊)及第一機動隊(空母艦隊)ヲ以テ五月下旬以降「パラオ」

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

比島、濠北方面ノ海域ニ戰場ヲ求メテ敵主力ニ決戰ヲ企圖シ著々準備ヲ進捗セシメタリ（「ア」號作戰）然ルニ敵ハ我判斷ニ反シテ機動艦隊支援ノ下ニ攻略部隊ヲ六月中旬「サイパン」島ニ指向スルニ及ビ作戰ハ「ア」號作戰豫期以外ノ方面ニ生起セルヲ以テ決戰作戰指導極メテ至難（特ニ基地航空部隊ノ運用）トナリシモ本機會ヲ逸シテ「サイパン」附近ヲ喪失セバ帝國爾後ノ作戰指導更ニ重大ナル困難ニ逢着スベキヲ以テ驀進スルコトナク六月十九日以降「サイパン」周邊ニ臨機ノ決戰ヲ斷行シタルモ却ツテ大ナル損害ヲ蒙リテ失敗シ「サイパン」防衛ノ至難性ヲ更ニ加重セリ

(ハ) 「タポーチョ」山陰近ノ戰鬪（六月十八日―六月二十七日）

(イ) 六月十八日ニ於ケル軍ノ企圖

軍ハ戰線ヲ整理シ爾後ノ決戰ヲ準備スル爲43Dヲ「タポーチョ」山東側地區ニ他ノ部隊（1351ノ二大隊、第成一大隊及海軍部隊）ヲ「ガラパン」東側地區ニ集結シ「ガラパン」南端ヨリ「タポーチョ」山麓ヲ經テ「ラウラウ」灌中央ヲ連ヌル線ヲ占領シ「バナデル」飛行場ヲ確保スルト共ニ「アスレート」飛行場ハ火砲射距離外トナルヲ以テ小部隊ノ潛入ニ依リ之ヲ制壓ス

(ロ) 戰線ノ整理敵攻撃準備ノ破摧

軍ハ小部隊ヲ挺進セシメ敵ノ攻撃準備ノ破摧ニ努メツツ二十日迄ニ其ノ主要戰線ヲ「ガラパン」南端―白崖―二三〇高地―八八高地―「ラウラウ」西方一五粁海岸ニ亘ル線ニ整理ス敵ハ陣前〇五―一〇五粁間ニ近接セリ、當時ニ於ケル我方ノ戰力ノ概要左ノ如シ

(A) 兵員

43D	歩兵	約四大隊半
	砲兵	一大隊
47B	歩兵	約半大隊
其ノ他	歩兵	一大隊

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

戰車　二中隊
高射砲一中隊

(ハ)兵　器

野砲一二門、高射砲六門、機關砲五門、戰車二七輛、大發九隻、小發二隻、折疊舟二〇隻

(ホ)糧　食（單位一萬人一日分）

主食一二〇、副食一五〇、調味料一三〇

海軍二〇〇

(ヘ)弾　藥（單位一師團一會戰分）

小銃MG〇一、重擲〇二、野山砲對戰車砲〇二、歩兵砲臼砲〇一、手榴弾〇一

(ト)敵ノ攻擊準備ノ狀況

六月十九日敵ハ「ガラバン」南方一粁三二七高地、二三〇五高地南一粁ノ稜線、一五一高地西方五〇〇米ノ高地、二三〇五高地南一粁ノ稜線、一五一高地ノ線ニ陣地ヲ構築シ「オレアイ」飛行場ニハ小型機三機著陸シアリ　七六　七五

六月二十日敵ハ「ナフタン」山及「ツツーラン」西側高地ニ對シ猛烈ナル砲撃ヲ實施セリ

一南日「ア」號作戰トモ關聯シ敵艦載機ノ來襲比較的僅少ナリト雖モ艦砲射撃ノ勢威毫モ衰ヘス

(チ)防禦戰鬪

六月二十一日ヨリ敵ハ逐次前進ヲ開始シ來リ「ツーラン」西側一六三高地ヘ終ニ敵ノ有ニ歸ス

六月二十二日、初二中隊ノ敵ハ早朝「タボーチョ」山南麓、二八五高地西側ニ進出シ來リ「ラウラウ」灣方面我ガ陣前ニハ戰車隊一五輛現出セリ

二三〇高地附近ノ敵ハ同高地東側ノ我ガ陣地ヲ攻撃シ來レルモ之レヲ撃退セリ

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

二三三高地南側ノ敵ハ戰車ヲ伴ヒ陣地ノ間隙ヨリ逐次我カ陣内ニ滲透シ尚同夜、二三〇高地東側高地、二八五、三四三高地ニ對シ各約一中隊ノ敵攻撃シ來レルモ各隊敢鬪悉ク之レヲ撃退セリ

尚同日「アスリート」飛行場ニハ「グラマン」二一機進出シアリ

六月二十三日「タボーチョ」山附近ノ戰鬪ハ漸次激烈ヲ加フ

六月二十四日敵ハ430正面ニ於テハ我カ陣地ノ間隙ヨリ侵入シ「タボーチョ」山東南麓、及「チャチャ」附近ニ進出シ西海岸方面ニ於テモ猛烈ナル砲爆撃支援ノ下ニ「ガラパン」南端東方八〇〇米高地、「タボーチョ」山西方一、軒高地三四三高地ノ線ニ進出シ來レリ

我軍ハ或ハ小部隊ノ夜襲ニヨリ或ハ肉搏攻撃ニヨリ相當ノ戰果ヲ收メツツアリシカ六月二十五ニ至リ敵ハ戰車ヲ伴フ歩兵一、

七七

二中隊ノ部隊ヲ以テ逐次我カ陣内ニ滲透シ來リ其ノ進出線ハ「タボーチョ」山西側「五〇〇」高地ー三四三高地ー二六九高地北方七〇〇米ノ高地ニ達シ「チャチャ」方面ニアリテハ敵戰車約一〇歩兵約三〇〇「ドンニュー」ニ同ヘリ

六月二十六日朝來敵ハ猛烈ナル砲爆撃ノ支援ノ下約二大隊ヲ以テ「タボーチョ」山ニ對シ攻撃シ來リ今ヤ同山頂ハ彼我爭奪ノ焦點トナレリ

我カ將兵ハ手榴ヲ盡シ寡兵ヨク極度ニ努メシモ力及ハス夕刻「タボーチョ」山ハ終ニ敵ノ奪取スルトコロトナレリ

七八

同夜第一線部隊ハ夜襲ニヨリ之ヲ奪回セントセシモ成功セス

(5)「タナバク」「タロポポ」附近ノ動向（六月二十八日ー七月五日）

(イ)六月二十七日ニ於ケル軍ノ企圖

軍ハ現占據線ヲ極力固守シ敵撃滅ニ努ムルト共ニ「タナバク」ー二三一高地ー「タロポポ」ノ線ヲ最後ノ抵抗線トシテ戰鬪ヲ續

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

行スルニ決シ夫々部署スルトコロアリ

(四)六月二十八日ノ戦況

敵ノ攻撃ハ上空及海上ヨリスル支援ト相俟ナテ益々激烈ヲ加ヘ一タボーチョー山附近「チャチャ」西北高地「ドンニー」四側高地附近ハ彼我ノ戦闘極メテ猛烈ナリ

六月二十八日我カ部隊ハ左ノ態勢ニアリテ敵ヲ交フ

118i 三個三高地東斜面（約五〇名）

118i 石北側高地ノ約五〇名

136i ノ一中（約三〇名）二六八高地

47BS 主力（約二〇〇名）「チャチャ」早原地

9TK （約一〇〇名）

六月二十九日ヨリ七月一日ニ至ル間各隊ハ或ハ野草・個戸ヲ掃リツツ陣地ヲ固守シテ遊撃ヲ繰ケツツアリシカ空中攻撃ニ呼應スル敵ノ猛烈射撃及迫撃砲射撃ニヨリ死傷者シク続出シ敵ハ我カ陣地ノ間隙ニ浸出侵入シ来リ「ガラバン」ー「タボーチョー」山「ドンニー」西側ノ陣地モ分ヤ遂ニ確保シ得サルニ至レリ

(八)戦線ノ整理

重ハ「タナバグ」ー「電信山北方」ー「タロボボ」北方ニ亘ル陣地線ニ縮移シ全軍最後ノ決戦ヲ敢行スヘク七月二日夜第一線ヲ撤シ三日「タナバグ」北側地点ヨリ二二一高地北麓ヲ経テ「ガラベラ」西南高地ニ亘ル線ニ陣地ヲ占領セリ

敵ノ追尾ハ右翼方面ニ於テ稍緩ナリシモ中央方面ニ於ケル進出極メテ迅速ニシテ三日夕・戦車ヲ伴フ約一五〇ノ敵ハ二二一高地ニ進出シ来レリ

七月九日ニ至リ敵ハ我カ叩在的陣ノ攻撃ニモ拘ラス遂ニ二二一

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

高地四側地區ヨリ我カ陣地内ニ侵入シ來リ我凍錯綜シ紛糾狀態ヲ呈スルニ至レリ

(6) 總反攻

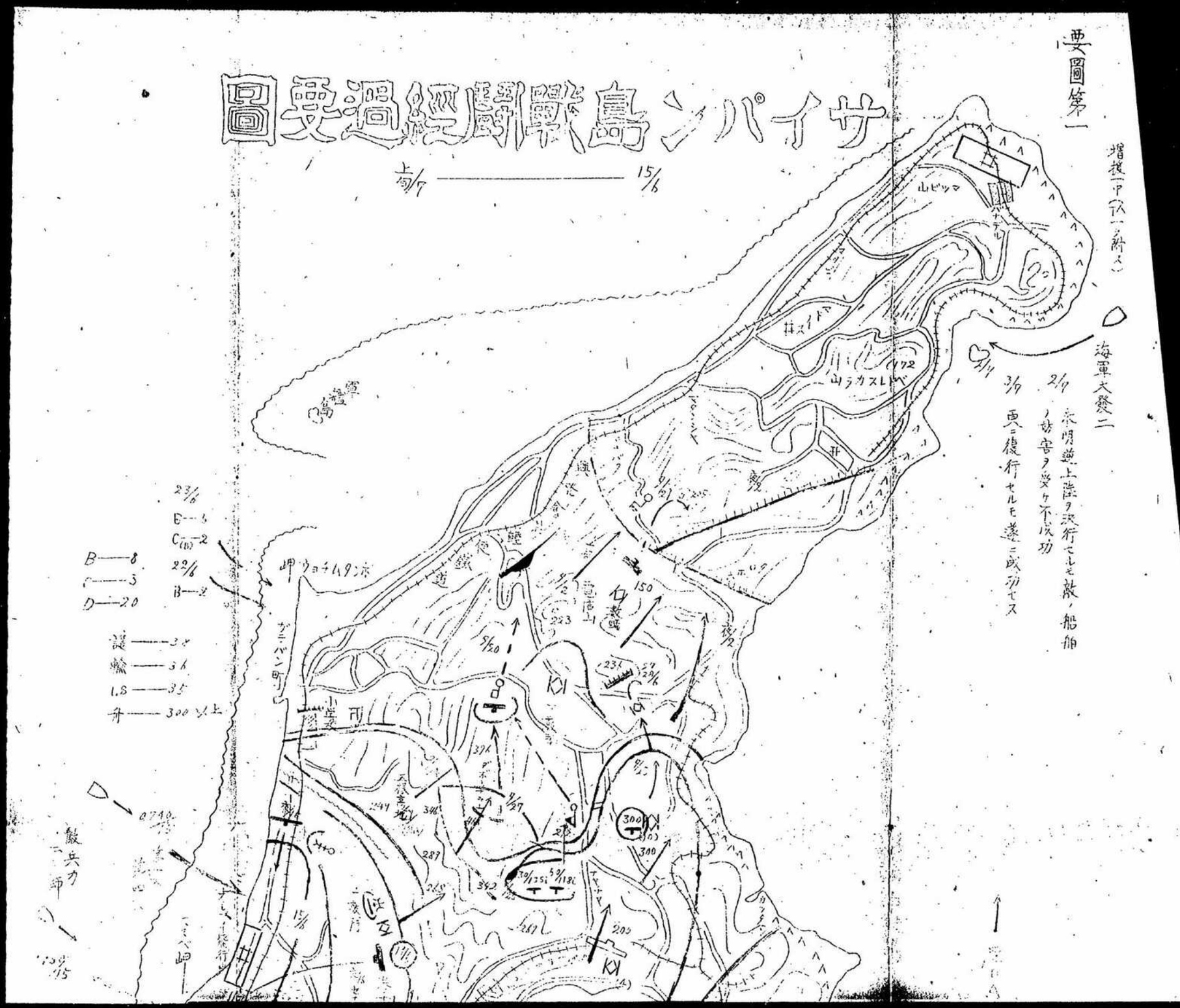
敵ハ七月五日ニ至リ全員一死ヲ以テ太平洋ノ防波堤タランコトヲ決シ七日ノ三三〇以降各〻當面ノ敵ニ向テ攻撃ニ轉シ最高指揮官ヲ先頭ニ最後ノ總突撃ヲ敢行「チヤランカノア」方向ニ向ヒ突進シ遂ニ「サイパン」島ニ於ケル組織的防禦戰鬪ハ終了セシモノノ如シ

裏面白紙

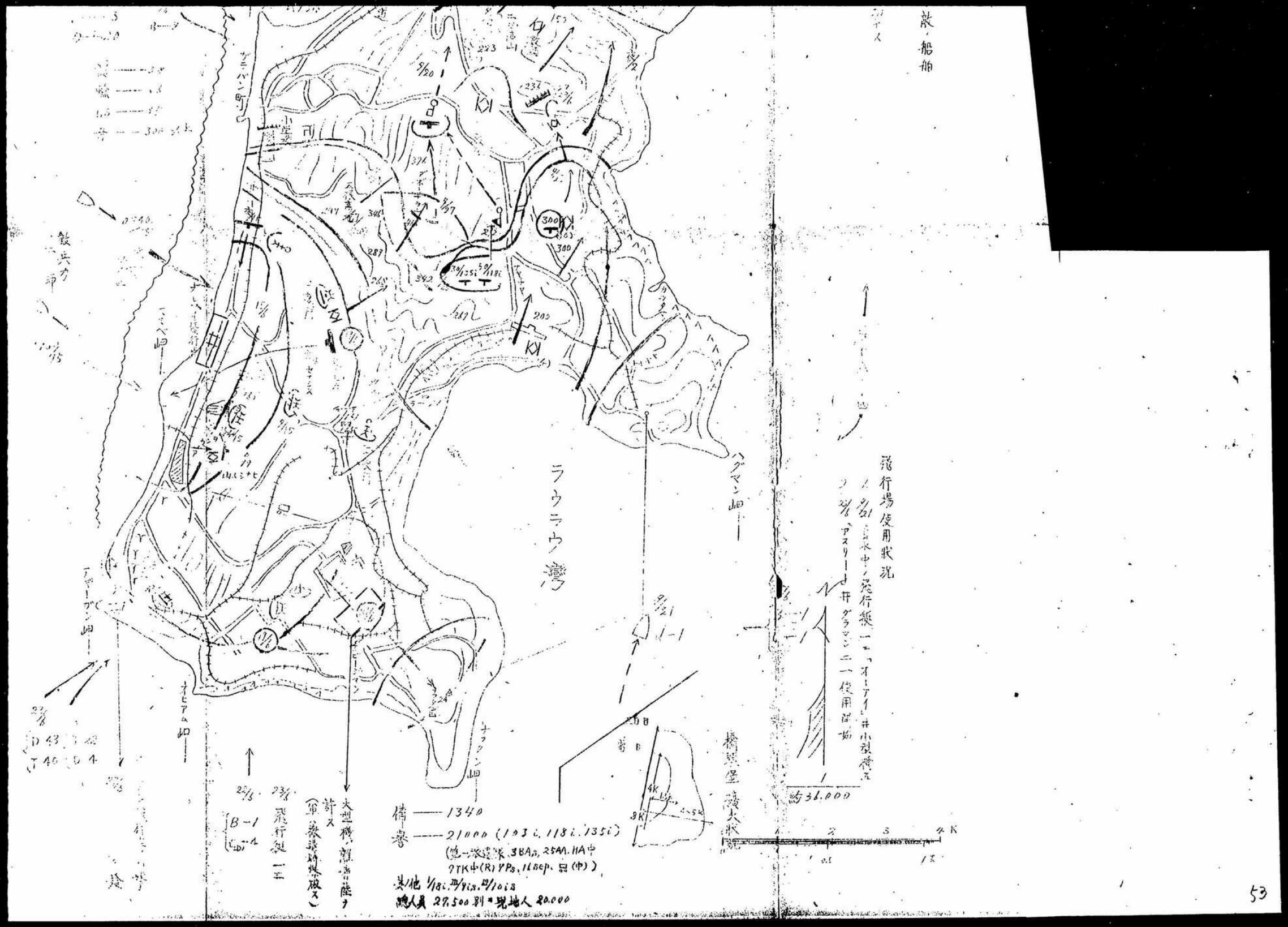
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

1 : 28

サイパン島戰鬪經過圖



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第三節　「グアム」島附近ノ作戦（要圖第二參照）

「註」「グアム」島ニ於ケル戰鬪ハ生存歸還者及資料乏シク內容頗ル簡ニシテ精確度保シ難キモノアリ

(一)作戰前一般ノ狀況

(1)「グアム」島ニ對シテハ一九四四年四月下旬以來敵機來襲シテ中部太平洋方面ニ於ケル全般ノ情勢ハ漸次緊迫化シ六月十一日「サイパン」島ト共ニ敵機動部隊ノ攻擊ヲ受ク

敵艦隊ハ「サイパン」島攻略後引キ續キ「マリアナ」海域ニ遊戈シ連日空爆、艦砲射擊ヲ實施スルト共ニ後方戰力ノ推進ヲ圖リツツアルカ如シ

(2)當時「グアム」島ニハ31A司令官、作戰、通信兩參謀ヲ伴ヒ「サイパン」作戰開始ト共ニ「サイパン」島歸還ヲ企圖シテ果サス在島中ニシテ直接作戰準備ノ指導ニ任シ左記ノ在「グアム」島部隊ハ近ク敵ノ來攻ヲ豫期シ鋭意防備工事ニ邁進中ナリ

八二

29D
48BS
10RS
52AA（大）
265（中）
海軍1FA54警備隊

八三

(二)作戰經過ノ概要

(1)敵上陸前ノ戰鬪（六月下旬ヨリ七月二十日迄）

「グアム」島ニ對スル敵ノ海、空ヨリスル攻擊ハ「サイパン」島ノ攻擊ニ呼應シ六月下旬以來漸次熾烈化シ六月二十六日ニハ約一五〇〇發ノ艦砲射擊ヲ受ケタリ而シテ七月上中旬ニ於ケル砲爆擊ハ左ノ如ク頓ニ猛烈トナレリ

旬別	種別	爆擊機	艦砲射擊
六月上旬		一〇機	
中旬	下旬	二五九〇	二八〇〇發
七月上旬		九〇〇	九七〇〇
中旬		一九八〇	六〇〇〇

1:25
裏面白紙
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

艦砲射撃ノ目標ハ主トシテ明石灣附近陣地施設ニシテ飛行機ニヨル銃爆撃ハ主トシテ海岸施設及市街ニ指向セラレタリ

七月十四日以來敵ハ掃海艇及小舟艇ヲ以テ時々距岸一〇〇〇米近ク迄近接偵察行動ヲ行ヘリ

七月十八日夜ヨリ十九日未明迄明石灣及昭和灣方面ニ於テ小艦艇ノ

ノ砲岸ニ對スル銃砲撃アリ十九日晝間ハ煙幕ヲ利用シテ明石、見晴臺方面ニ艦砲射撃ヲ集中シ同方面ヨリノ敵上陸ノ企圖漸次顯著トナレリ各守備部隊ハ連日連夜ノ敵艦砲射撃ノ下ニ益〻防備ヲ補備強化シ應機即變ノ態勢ニアリ

(2) 水際附近ノ戰鬪（七月二十一日ー七月二十四日）

(イ) 七月二十一日〇五三〇明石灣沖ニ輸送船五三、戰艦其ノ他三〇昭和灣沖ニ輸送船一四、戰艦其ノ他三〇現出、明石灣方面ニ於テハ〇六五五距岸十二粁附近發進約二〇〇ノ上陸用舟艇及「アリゲーター」一五〇ヲ以テ夜間岬ー見晴岬ノ間ニ又昭和灣方面

ニ於テハ〇八〇〇上陸用舟艇一〇〇以上ヲ以テ猛烈ナル砲撃支援ノ下上陸ヲ開始セリ

所在ノ我カ部隊ハ水際陣地前至近ノ距離ニ於テ之ヲ邀撃セシモ遂ニ昭和方面ニ於テハ敵ハ反撥上陸ヲ敢行シ一四〇〇頃有羽山ノ中腹迄明石正面ニ於テハ幾間岬ヨリ本田山北側ニ亘リ進出スルニ至レリ、夕刻迄ニ上陸セル敵ハ兩方面ヲ合シ約二ケ師團ト判斷セラルル、同夜29Dハ主力ヲ以テ敵ノ橋頭堡ヲ確保セサル機ニ乘シ逆襲ヲ決行セシモ大ナル成果ヲ得ス昭和方面ニ於テハ聯隊長以下多數ノ損害ヲ蒙レリ

七月二十二日ヨリ二十四日ニ至ル間我カ軍ハ明石、昭和兩方面共敵ノ橋頭堡ニ向ヒ小部隊ノ逆襲肉薄攻撃ヲ實施シ戰線大ナル變化ナシ

(3) 攻勢移轉（七月二十五日ー七月二十六日）

軍司令官ハ敍上ノ持久作戰ヲ繼續スルモ其ノ任務ヲ達成シ得ザル

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

モノト判斷シ全力攻勢ニ依リ決戰ヲ求メ一擧ニ勝敗ヲ決セントシ七月二十五日ヲ期シ反擊スルニ決ス

斯クテ二十五日夜 25D 主力、戰車隊、海軍陸戰隊（約一〇〇〇名）ハ本田山北側ノ米軍橋頭堡ニ對シ攻撃ヲ開始ス

然レドモ敵ノ優勢ナル艦砲射撃及橋頭堡ヨリスル火力ニヨリ攻勢ハ失敗シ 29D 長以下大隊長以上幹部ノ大半戰死シ海軍陸戰隊ニ於テモ指揮官以下約二〇〇戰死ヲ算セリ

(4) 戰線ノ整理（七月二十七日ー七月二十九日）

軍ハ二十五日夜攻撃ニ參加セサリシ極メテ少數ノ兵力ヲ以テ舊陣地ヲ防備セシメタリシカ、翌朝來敵ハ熾烈ナル砲爆撃ノ下戰車ニ誘導セラレタル兵力ヲ以テ全線ニ亘リ我カ陣地ニ殺到シ本田山西南高地及其ノ南方高地ハ敵ノ有ニ歸セリ

茲ニ於テ軍司令官ハ部隊ヲ折田附近ニ集結シ再擊ヲ圖ルニ決シ二十八日夜ヨリ二十九日天明迄ニ本田山附近ノ陣地ヲ撤ス

二十九日折田附近ニ於テ掌握セル兵力左ノ如シ

歩兵第一〇〇〇名　海軍陸戰隊約八〇〇名　29D 戰車隊

48 Bs 砲兵隊（六門）其ノ他二五〇〇名

大本營ハ全般ノ情況上「マリアナ」方面ニ對スル支援ヲ敢ニ實施シ得サルニ鑑ミ軍司令官ニ對シ努メテ長ク持久ヲ圖ルヘク指導スル所アリ

(5) 北部地區ニ於ケル持久戰（七月三十日ー八月十日）

(イ) 七月三十日ー七月三十一日ノ狀況

七月三十日敵ハ平塚附近ニ砲爆撃ヲ集中シ且附近森林ヲ反覆低空偵察ス軍ハ戰線ヲ整理シ主力ヲ高原附近ニ集結シ軍司令官ハ高原山ヲ最後ノ抵抗陣地ト定メ且目ラ「イババオ」附近ニ進出シテ部隊ノ集結新作戰ヲ指導ス

七月三十一日「オルドベウト」附近ニ於テ我カ戰車隊ハ敵歩兵約一中隊ヲ撃破セリ又諸隊ノ掌握ハ至難ノ戰況ニ在リテ概ネ確

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

實ニ行ハレ三十一日天明迄ニ右地區隊ヲ以テ平塚周邊ニ左地區隊ヲ以テ春田山西南麓ニ陣地ヲ占領ス

(ロ) 八月一日ー八月四日ノ狀況

八月一日敵ハ平塚山「マタグア」附近ニ對シ熾烈ナル艦砲射擊及爆撃ヲ實施シ其ノ第一線ハ「オルドベウト」南側及飛行場附近ニ進出ス

敵ハ晝間飛行機ヲ以テ森林内ヲ綿密ニ捜索シ一兵モ看過スルコトナク銃爆撃ヲ行ヒ夜間ハ島ノ四周ヨリ艦砲射撃ヲ以テ交通遮斷擾亂ヲ行ヒ我ガ指揮及行動ヲ妨害ス

八月二日ヨリ八月四日ノ間敵ハ平塚「ソルミチ」方面ニ對シ戰車一〇、歩兵約五〇〇、春田方面ニ對シテハ戰車五、歩兵約二〇〇ヲ以テ攻撃シ來リシモ部隊ハ健闘克ク之ヲ撃退ス

(ハ) 八月四日頃ノ高原山附近ノ我ガ守備兵力概ネ左ノ如シ

陸軍	一、五〇〇		八八
海軍	一、〇〇〇		八九
其ノ他	二、五〇〇	七	
砲		一〇	
LTk MTk		三	

(ニ) 八月五日ー八月九日ノ狀況

我カ軍ハ小部隊ニヨル「ゲリラ」戰ヲ以テ潜入攻撃ヲ實施スル所アリシモ敵ハ隨時隨所ニ熾烈ナル砲爆撃ヲ實施シ緩徐ニ攻撃シ來リ八月七日又木山陣地ニ對シ戰車ヲ伴フ約二〇〇ノ敵突進シ高原附近亦追撃砲火ノ集中ヲ受ケ我ガ戰力ハ頓ニ減耗シ戰場全般ニ紛戰トナリ九日軍司令官ハ手兵約三〇〇ヲ以テ當面ノ敵ヲ求メテ突撃ヲ敢行セリ

十日通信社經由ニ「グアム」島ニ於ケル組織的戰鬪ハ終焉セリ

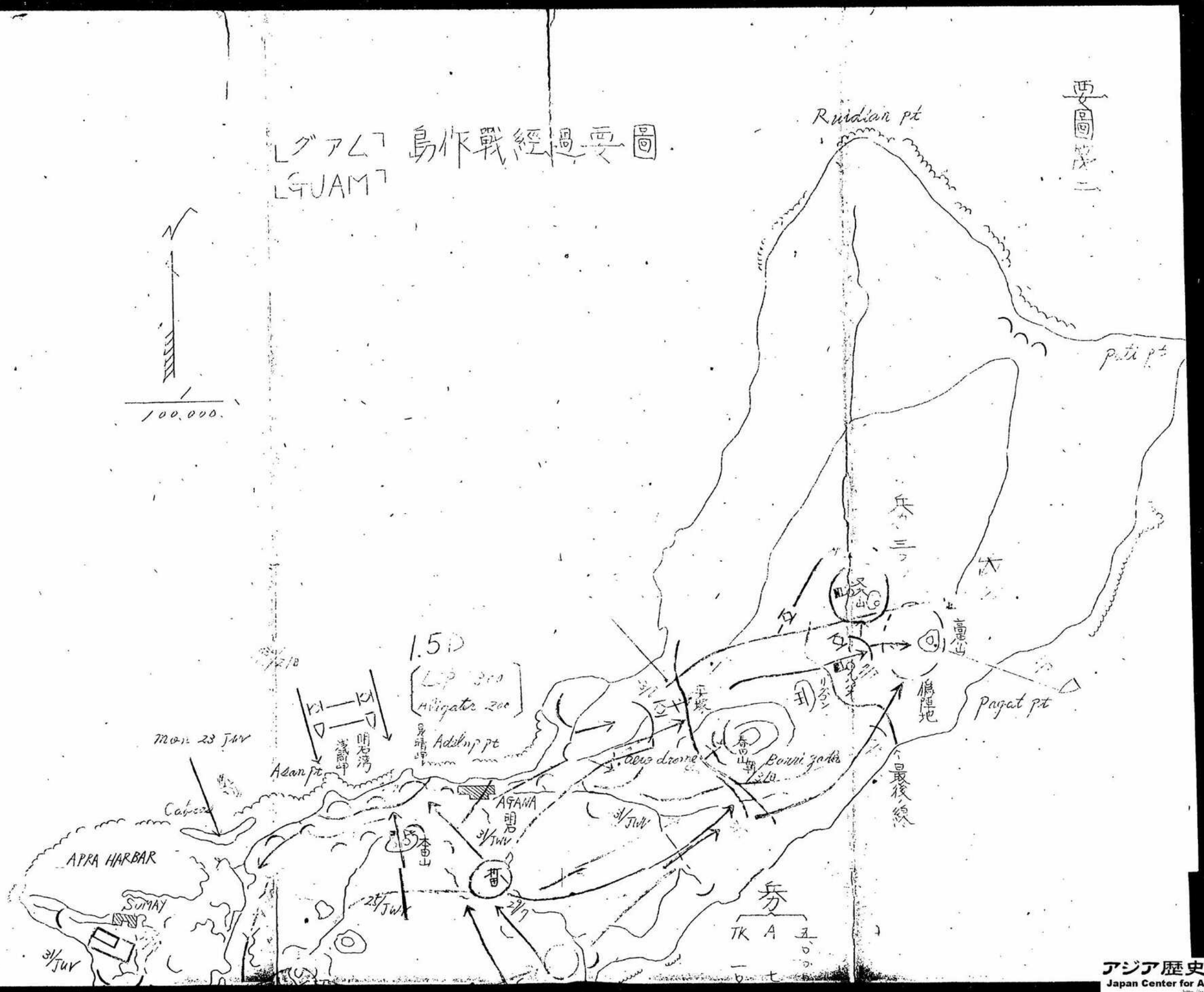
裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

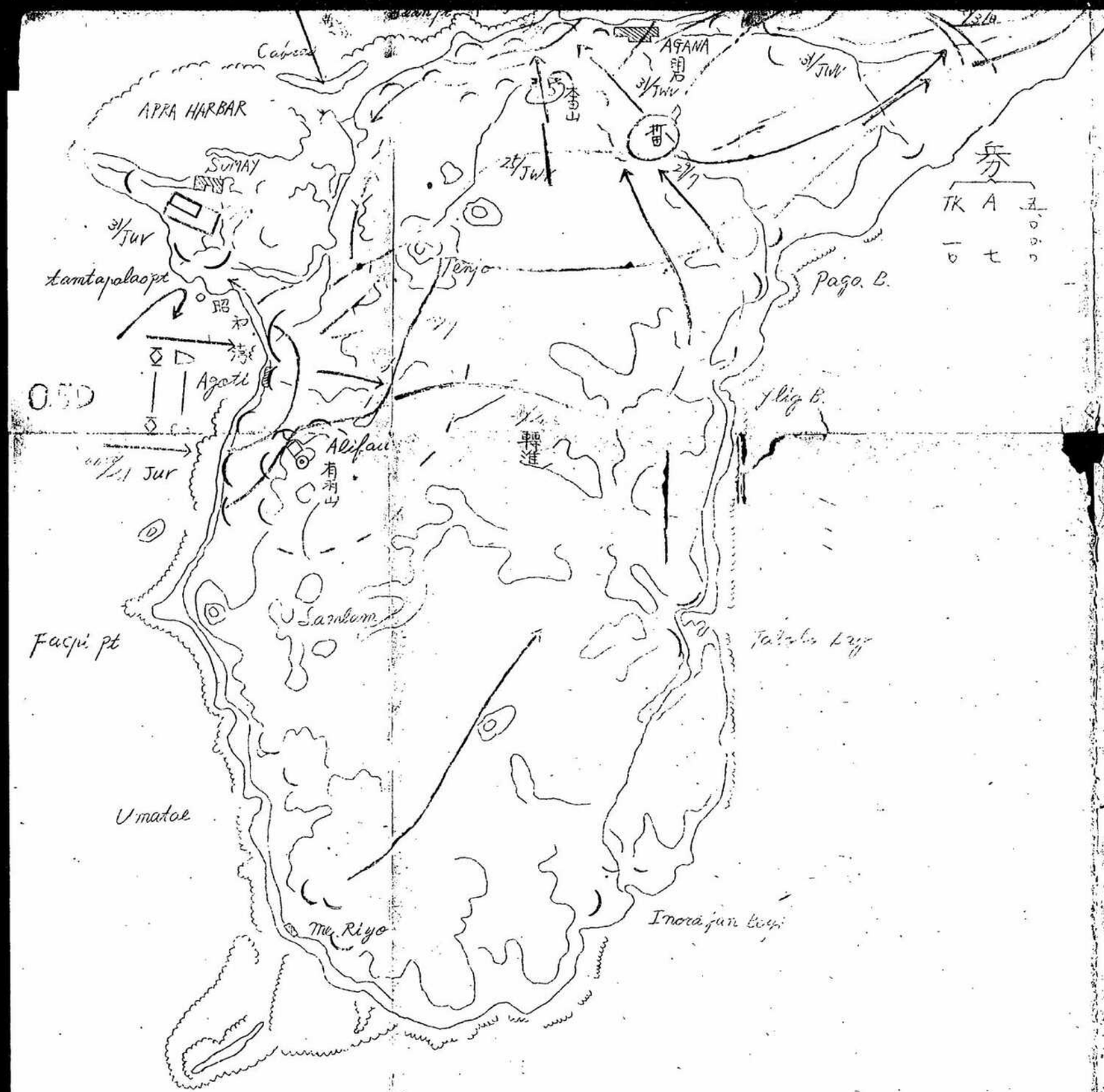
1:32

「グアム」島作戰經過要圖
「GUAM」

要圖第二



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第四節　「テニアン」島ノ作戦（要圖第三參照）

(一)作戦前一般ノ狀況

(1) 一九四四年六月「マーシャル」「カロリン」方面ノ敵ノ行動　活潑トナリ、六月十一日終ニ「テニアン」島ハ「サイパン」「グアム」島ト共ニ敵機動部隊ノ攻撃ヲ受ケタリ

六月下旬ニ至リ「サイパン」島ニ上陸セシ敵ハ「アギガン」岬ヨリ重砲ヲ以テ「テニアン」飛行場ノ制壓ヲ開始セリ

(2) 當時「テニアン」島ニ在リシ陸軍部隊ハ敵上陸必至ノ情勢ニ鑑ミ防備ヲ益〻嚴ニシ敵ノ來攻ヲ待テリ

其ノ兵力左ノ如シ

指揮官　歩兵第五十聯隊長

50i　主力　一大/43D

(二)作戦經過ノ概要

(1) 敵上陸前ノ戦況（六月下旬ヨリ七月二十三日迄）

六月下旬ヨリ七月中旬ニ亘ル間「テニアン」島ニ對スル敵ノ砲爆撃ハ概ネ左ノ如ク「サイパン」島攻撃ニ呼應シ熾烈ヲ極メタリ

旬別	爆撃	艦砲重砲射撃
六月下旬	三、〇〇〇機	九、一〇〇發
七月上旬	八六〇	一、三〇〇
七月中旬	四〇〇	八〇〇

七月二十日以來敵ノ「グアム」島上陸作戦ト共ニ其ノ砲爆撃ハ頓ニ強化シ七月二十二日午後大型上陸用舟艇二、銃砲撃ヲナシツツ「テニアン」港「リーフ」附近ニ接岸強行偵察實施ス

此ノ間守備隊將兵ハ連日空海ヨリノ砲爆撃ニモ屈セズ

善防勇戦好機ニヨル必殺ノ射撃ヲ以テ相當ノ成果ヲ收メタリ

(2) 水際附近ノ戦闘（七月二十三日ー七月二十四日）

七月二十三日〇五五〇ヨリ敵ハ戦艦四、巡洋艦二、駆逐艦七ヲ以テ數時間ニ亘リ砲撃シ檢巡船七「テニアン」港ニ上陸ヲ企圖セシモ我

1:25:1
裏面白紙
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

カ海軍砲艦ノ射撃ニヨリ之レヲ撃退ス

七月二十四日〇四四五敵ノ戦艦一、巡洋艦一、驅逐艦六、輸送船七、大型上陸用舟艇二、「テニアン」港南西五、〇〇〇米ニアリテ上陸準備中ニシテ〇五四〇以後其ノ砲撃ハ熾烈ヲ極メ多數ノ發煙島ノ西側一面ヲ遮斷セリ

〇六〇五「テニヤン」港方面ハ上陸用舟艇一〇〇隻以上、一齊ニ前進シ來レルモ克ク之ヲ撃退ス

〇七三〇ニ至リ敵一飛行場西海岸方面ニ上陸用舟艇約一五〇來襲セルモ亦之レヲ撃退シ一〇四五頃「テニアン」港方面ニ於テ再ヒ敵ハ上陸ヲ企圖セシモ亦克ク健闘撃退セリ

然レトモ西北海岸方面ノ敵ハ〇八〇〇頃遂ニ西「ハゴイ」西海岸ニ於テ戦車ヲ伴フ一部ヲ以テ上陸シ來リ第一、第三飛行場ニ侵入シ茲ニ圧上作戦ハ開始セラレ所在部隊ノ敢闘ニモ拘ラズ一六〇〇迄ニ両方面ニ上陸セシ敵ハ約三大隊戦車一〇ニ達ス

九三

茲ニ於テ守備部隊ハ二十三日朝來波戦ヲ續ケツツアリシカ二十四日夜全力ヲ以テ西北部橋頭堡ニ對シ反撃ヲ實施シタルモ兵力ノ寡少ハ目的ヲ達成スルヲ至ラス

九四

(3) 送信所附近ノ戦闘（七月二十五日ー七月二十八日）

聯隊長ハ敵ノ上陸阻止迄ニ水際撃破不成功トナレルヲ以テ先ツ送信所「グルグアン」岬ノ線ニ於テ敵ヲ邀撃スルニ決シ部署スルトコロアリ

敵ハ二十五日以來「サイパン」方面ヨリ舟艇ヲ以テ兵力ノ増強ヲナシ逐次地歩ヲ擴大シ戦車數輛乃至十數輛ヲ先頭ニ七月二十七日送信所附近ノ前面ニ殺倒ス

所在部隊ハ寡兵ヨク敵ノ攻撃ヲ阻止セシモ二十八日ニ至リ送信所附近ハ遂ニ突破セラレタリ

(4) 「カロリナス」山附近ノ戦闘（七月二十九日ー八月三日）

茲ニ於テ部隊ハ一部兵力ヲ「ラジオビーコン」「テニヤン」町北

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

端附近ニ配置シテ其ノ前進ヲ阻止スルト共ニ主力ヲ以テ「カロリサス」山一帯ノ地區ヲ占領シ敵後ノ抵抗ヲナスニ決ス

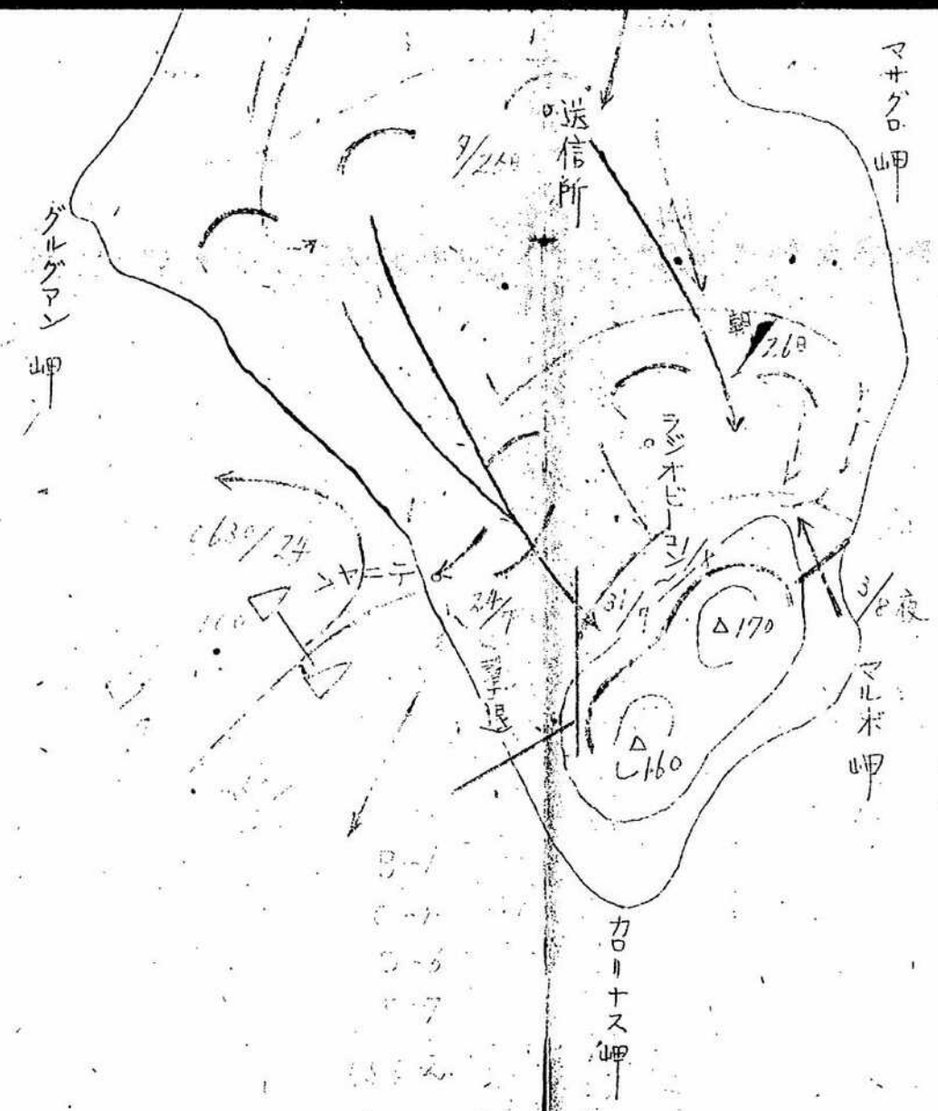
斯ノテ七月三十日敵ハ我カ主陣地前面ニ現出シ猛烈ナル砲爆撃支援ノ下ニ漸次我ヲ壓迫シ戰況日ヲ逐フテ不利ニ傾ケリ

八月三日聯隊長ハ手兵ヲ集メテ敵後ノ攻撃ヲナスニ決シ同夜一七〇島地東南谷地ノ森林中ニ全兵力ヲ集結（當時聯隊長ノ掌握セルハ約三〇〇名ナリ）シ敵部隊ノ左翼ニ向ヒ出撃シ全員殲ニ殉シタルモノノ如ク茲ニ「テニアン」島ニ於ケル組織的戰鬪ハ終了セリ

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



原本不明瞭

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第五節　「マーシャル」「カロリン」方面ノ狀況

(一)「ウエトキ」島、「マーシャル」群島各島及「クサイ」島ニアル各部隊ハ第四艦隊司令長官ノ指揮ヲ受ケ日々來襲スル敵機ノ跳梁ヲ制シ防備ノ增強ニ任ス

(二)「ポナペ」島以西「エンダービー」以東ノ部隊ハ「トラック」地區集團長ノ指揮下ニ來襲敵機ヲ制シツツ鋭意防備ノ增強ヲ圖リツツアリ

(三)「メレヨン」島

「トラック」「パラオ」兩島ノ中間要衝トシテ航空基地ノ整備竝ニ地上防備ノ強化ニ努メ補給ノ杜絶ト敵機ノ空襲ニ耐エツツ最後迄防備ヲ續續セリ

(四)「パラオ」地區

(1) 軍ハ七月十九日全般ノ情勢ニ鑑ミ「パラオ」本島ノ防備強化ヲ命シ集團ハ一部部署ノ變更ヲナスト共ニ鋭意防備工事ノ促進ヲ圖レリ

(2) 對機動部隊戰鬪（七月二十五日ー七月二十七日）

敵ハ比島方面ヨリ「パラオ」「ヤップ」ヲ經テ「マリヤナ」方面ニ對スル我カ航空增援ヲ遮斷シ「マリヤナ」作戰ヲ一擧ニ決定セント企圖セシモノノ如ク七月二十五日A二、B二、C六、D一〇等ヨリナル機動部隊ハ「ヤップ」南方一〇五浬ニ現出同日一四〇〇ヨリ七月二十七日一四五五ニ至ル迄「パラオ」各島及「ヤップ」島ノ我カ航空基地ヲ執拗ニ銃爆撃セリ

所在ノ我カ部隊ハ之レヲ邀擊健鬪克ク地上砲火ヲ以テ一部ノ戰果ヲ收ム

第五章　「マリヤナ」失陷後一九四四年末ニ至ル第三十一軍ノ作戰指導

(一) 大本營ハ「マリヤナ」方面ノ戰況竝ニ一般ノ狀況ニ鑑ミ七月一日小笠原地區要塞ヲ大本營ノ直轄トシ又九月一日「パラオ」地區集團ヲ比島方面防衛トモ離隣シ之ヲ兩方軍隊下ニ入ラシメ其ニ第三十一軍

62 (2/3)

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

戦闘序列ヨリ解除セリ

(二)八月上旬第三十一軍軍司令部機能喪失ニ伴ヒ「トラック」地區集團長ハ軍司令官ノ職務ヲ代行シ第三十一軍隷下各部隊ニ依然前任務ヲ續行スヘキヲ命セリ

而シテ「マリヤナ」群島ノ失陥ハ中部太平洋諸島ノ連關有機的機能ヲ喪失シ各島夫々孤存孤立化ヲ招來セシト雖モ同諸島ヲ喪失擴大ハ帝國本土ニ對スル敵ノ脅威ヲ增大スルニ鑑ミ皇ハ普ク從來ノ戰訓ヲ活用シ陣地ノ強化、教育訓練ノ周到、現地自活ノ徹底ニ努メ將來ニ於ケル反擊作戰ノ支障タルヲ堅ク期スルト共ニ諸情報ノ收集ヲ周到適切ナラシメ敵企圖ノ察知ニ努メテ全皇ノ決戰ニ寄與スヘク爾後ノ作戰ヲ指導セリ

(三)九月初旬ニ於ケル第三十一軍ノ態勢左ノ如シ

62 (3/3)

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第三十一軍配備一覧表

一九四四年九月

区分	「トラック」地区集団						軍直部隊			軍直部隊（第四艦隊指揮）						
		「トラック」守備隊	「ポナペ」守備隊	「モートロック」守備隊		「エンダービー」守備隊	「メレヨン」守備隊	「ロタ」守備隊	「パガン」守備隊	「ウオッゼ」守備隊	「マロエラップ」守備隊	「ミレ」守備隊	「ヤルート」守備隊	「クサイ」守備隊	大鳥守備隊	
島嶼	「トラック」	「トラック」	「ポナペ」	「サトワン」	「ルクノール」	「エンダービー」	「メレヨン」	「ロタ」	「パガン」	「ウオッゼ」	「マロエラップ」	「ミレ」	「ヤルート」	「クサイ」	「ウエーキ」	「トラック」
部隊	31A 司令部	52D（107i欠） 57Ds（i一大、A一大欠） 9Pc（一中欠）	53? II 1.3.M M.A T.K S/107i	A53i	1天 A下/573s	77is 一部/52D	50iB 一部/4301 一部/52D	10iS 一部/43Ds	9is 一部/4301 其ノ他	3 II/75i	9/75i	75i（一大欠） III/107i	III(一中)/75i	23i 107i（II、III欠）	13is	五八碇泊場司令部

軍隊下各部隊ハ爾後統帥防備ノ強化ニ努メ來襲敵機ノ跳梁ヲ制シツツ築城ノ完成教育訓練ニ邁進シ一方、現地自活ノ諸施策モ「ウエーキ」島「エンターピー」島「メレヨン」島等不毛島嶼ヲ除キ概ネ順調ニ進ミ全員必勝ノ念旺盛ナリ十月中旬頃ハ「バラオ」諸島中「ペリリユー」島ニ上陸ス（記錄ハ第二卷ニ依ル）

第六章　硫黄島防衛作戦

〔一〕作戦前一般ノ觀情

「サイパン」島作戦開始ト共ニ米軍ハ「マリアナ」ニ對スル日本軍增援進出及小笠原基地利用ノ航空作戦阻止ノ爲小笠原群ニ位黄島ニ對シ空軍ノ攻撃ヲ激化シテ七月四日ニハ一日延二百二十機以上ニ達シ爾後八月以降翌年二月ニ至ル間常續的ニ來襲一日平均二〇～四十機ヲ算スルト共ニ此間機動部隊ヲ以テ時々直接艦砲射撃ヲ加ヘタリ敵ハ「マリアナ」攻略後同地ヲ急速ニ整備シ機動部隊亦逐次「ウルシイ」「ワ島」ニ前進シ同地ヲ根據トスル太平洋制空海權ヲ掌中ニ收メ

（一〇一）

此間敵中「ルソン」作戦ノ過程ニ於ケル二月上旬ニ於テハ「マリアナ」基地B29ハ百八十機ニ上リ、十二月以降帝國本土要地ノ空襲ヲ本格化スルニ至レリ

硫黄島ニ對スル敵機及機動部隊來襲一覽別紙第一ノ如シ

裏面白紙

三 小笠原兵團ノ兵力編組、任務、配置

一 兵力增強

一九四三年（昭和十八年）秋以降中部太平洋諸島帝國國防圏ノ最前線トシテ重視セラルルニ至ルヤ小笠原地區亦父島要塞司令官（東部軍隷下）指揮ノ下ニ戰備ヲ強化ス大本營ハ一九四四年（昭和十九年）二月末要塞歩兵部隊ヲ之ニ增加シ且之ヲ第三十一軍ノ戰闘序列ニ入ラシメ更ニ「サイパン」作戰間即チ六月十九日歩兵第百四十五聯隊ヲ、七月四日海成第十七聯隊ヲ小笠原地區ニ增加スル所アリ

「マリアナ」地區失陷ニ伴ヒ小笠原兵團ヲ大本營直屬トシ九月二十二日父島要塞歩兵部隊ヲ以テ第百九師團ヲ編合シ同地域ノ防備体系ヲ強化セリ

二 一九四四年（昭和十九年）九月末現ニ於ケル小笠原兵團ノ戰闘序列ノ概要

小笠原兵團長　陸軍中將　栗林忠道

第百九師團（編合別紙）

歩兵第百四十五聯隊

獨立混成第十二聯隊

獨立混成第十七聯隊

獨立歩兵第二百七十四、二百七十五、二百七十六大隊

戰車第二十六聯隊

獨立機關銃第一、第二大隊

獨立速射砲第八、第九、第十、第十一、第十二大隊

特設第二十、第二十一、第四十二、第四十四、第四十五、第四十六高射砲隊

中迫撃第二、第三大隊

獨立迫撃第一中隊

獨立臼砲第二十大隊

裏面白紙

65

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

船舶工兵第十七聯隊
野戰作井第二十一中隊
獨立海上輸送第二中隊
要塞建築勤務第五中隊

一〇四

別紙

第百九師團編合
第百九師團司令部
混成第一旅團
混成第一旅團司令部
獨立歩兵第三〇三大隊
〃 第三〇四大隊
〃 第三〇五大隊
〃 第三〇六大隊
〃 第三〇七大隊
〃 第三〇八大隊
混成第一旅團砲兵隊
〃 工兵隊
混成第二旅團
獨立歩兵第三〇九大隊

一〇五

66

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

獨立歩兵第三一〇大隊　一〇六
〃　第三一一大隊
〃　第三一二大隊
〃　第三一三大隊
〃　第三一四大隊
獨立混成第二旅團砲兵隊
〃　工兵隊
〃　野戰病院
混成第一聯隊
重砲兵第九聯隊
第百九師團高射砲隊　一〇七
〃　警戒隊
〃　野戰病院
父島陸軍病院
第百九師團通信隊

三、任務

小笠原諸島ヲ防衛シ我新空根據ヲ確保シ之ガ活用ヲ容易ナラシム
敵ノ來攻ニ方リテハ之ガ撃破ニ努ムルト共ニ之ヲ死守シ努メテ長
ク敵ノ飛行場使用ヲ拒絶ス
〔一部隊（詳細不明）
小笠原兵團ハ主力ヲ以テ父島、一部隊ヲ以テ父島約歩兵
二大隊基幹ヲ以テ母島及兄島ヲ守備ス
作戰生起直前ニ於ケル父島守備兵力ノ大要左ノ如シ
父島守備隊長　第百九師團長
第百九師團司令部主力
混成第二旅團
歩兵第百四十五聯隊
獨立混成第十七聯隊第三大隊
戰車第二十六聯隊

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

獨立機關銃第一、第二大隊
第二十、第二十一、第四十四機關砲隊
獨立速射砲第八、第十二大隊
獨立迫擊砲第一中隊
中迫擊砲第二、第三大隊
獨立臼砲第二十大隊
第百九師團高射砲隊
第百九師團野戰病院
第百九師團通信隊
渡洋第一旅團工兵隊
後方部隊

計　約一四、〇〇〇名

註

ノ其ノ他海軍砲台守備板橋砲部隊約六〇〇名　一〇八

2 火砲ハ對戰車砲以上約二四四門　一〇九

3 戰車　二十三輛

円 硫黄島防禦配備

硫黄島第百九師團（歩兵第一一連隊）ノ陣地配備、及硫黄島陣地編成別紙第二、第三ノ如シ

本陣地構築ノ若干左ノ如シ

1 島ノ地形大體ハ千鳥飛行場附近平坦ニシテ以東大部ハ小波狀ノ小丘阜ナリ

2 島ノ名稱ノ示ス如ク地熱高ク地下深キ築壕ヲ構築スルコト困難ナリ海ニ平地ニ於テ然リ

3 地形地質右ノ如キモ約半歲ニ亘リ一般ニ強度ノ對戰築壕陣地ヲ完成シ據點ハ語所ニ洞窟式陣地ヲ含マシム

4 輸送物ハ資材ノ關係上寡少大ナラズ

5 地質上水ノ獲得ニ最大ノ缺陷アリ

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

(ハ)硫黄島防衛作戦経過概要（別紙第四参照）

一、敵上陸迄ノ状況（二月十二日～二月十八日）

二月十二日敵機動部隊「ウルシイー」、攻略部隊「マリアナー」ヲ出動スルノ報アリ十三日ニ至リ敵水上艦船七〇～一〇〇サイパン島西南約七十浬ヲ北々西方向ニ航進スルヲ発見シ小笠原兵団ハ戦備ヲ令シ防禦配備ニ移ス

二月十六日、〇六五〇「グラマン」二十一機硫黄島ニ來襲スルト共ニ敵ノ艦船ハ左ノ如ク硫黄島沖岸五乃至十六粁ニ接近旬間シ飛行場及「ハイブ」山ニ到シ盛他射撃ヲ實施スルト共ニ上陸準備中ナルモノノ如シ

硫黄島北々東	E	C二	D八	LST
〃 東	A	C二	D一〇	
〃 南々西	B	C五	D七	LST一
〃 四々南	LST	一三	一九	一一〇

〃 北西々 C D三 T五 LST一〇 一一一

二月十七日敵ハ艦船砲他射撃続行間偵察部隊ヲ以テ夫々一〇三〇ニッ根海岸ニ一〇四〇摩山海岸ニ上陸ヲ企図セシモ之ヲ撃退セリ

一三三〇硫黄島北方艦船ニ到シ陸軍特別攻撃隊ハ機ノ攻撃アリ

二月十八日艦載機約三五〇機父島ニ來襲ス

〇六〇〇以降B二 C四 一五 硫黄島東地区ヲB二 C四 一五 南地区水際陣地船見台「ハイブ」山ヲ〇四一五 西地区水際陣地ヲ射撃シ千鳥飛行場大破シ特火點六海軍他台ハ破壊セラレタリ

一五〇〇以降A五 B三 〇九 D二〇ノ標護下ニT九 LST六其ノ他二〇以上合計約一三〇隻甲方海上ニ在リ

水際陣近ノ艦船（二月十九日～二十二日）

二月十九日〇八〇〇艦砲射撃及爆撃（一日常時五十機在空）ノ援護下ニ敵ノ攻撃第一波百隻（兵力約一千輸送車約百）車場陸揚、高砂台東側約二千米ノ間ニ上陸シ攻撃第二波第三波（共ニ約百隻内

裏面白紙

外ノ之ニ継行ス

一四〇〇頃敵ノ兵力ハ約六千戦車百五十ニ達シ攻撃重点ハ地熱原方面ニ指向セラレアルカ如ク一部ハ「バイブ」山方向ニ戦果ヲ拡張ス

二一〇〇頃敵ノ上陸兵力約一万戦車二百以上ヲ算シ南波止場北方台上ニ進出スルト共ニ神山海岸ニモ上陸ヲ企図ス本日ノ敵砲爆撃ニ依リ火点二十四破壊シ火砲陣地約半減ス上陸軍ハ海兵第四、五師団ナリト推定セラル

敵ハ我増援遮断ノ為「グラマン」及B24一、三〇機ヲ以テ父島ニ來襲セリ

一月二十日〇八〇〇頃南波止場附近ヨリ敵ノ後続部隊上陸ヲ継行ス神山阿近ニ到スル敵ノ上陸及南波止場北方主陣地ニ侵入セル敵ヲ撃退セシモ千鳥飛行場ハ敵ノ有ニ帰シ南北地區ノ連絡遮断セリ「バイブ」山ニ到スル敵ノ攻撃及艦砲射撃熾烈ヲ極メ同地區部隊ノ戦力ハ頓ニ半減ス

一一二

二月二十一日〇七〇〇―一八〇〇間戦線ハ南波止場、南部落船見台南側陽ケ丘千鳥部落ノ線ニ在リ敵ノ重、中戦車ハ南部落方面ニ集中セラレ同地ハ激戦焦点ト化ス

海上B一　〇一三、D四二　T八〇大型舟艇一〇〇小型舟一五〇ヲ認ムル外大輸送船約三十隻新ニ到着シ（海兵第三師團？）上陸ヲ開始セルモノノ如シ

本日海軍艦攻艦爆等約三十機周邊艦船ヲ攻撃シ沈没大型船五其ノ他大火柱約二十ノ戦果ヲ挙ケ守備軍ノ志氣向上ス

二月二十二日敵ハ空海ヨリノ掩護下戦車ヲ伴ヒテ屏風山、玉名山方向ニ弾引ナル攻撃ヲ開始シ屏風山附近ヨリ船見台北側ニ亘ル主陣地ニ侵入セルモ屏風山ハ逆襲ヲ以テ之ヲ奪回ス

夕刻ニ於ケル敵ノ第一線ハ南波止場、南部落北側、元山飛行場南側、千鳥部落浮地獄ノ線ニ在リ南波止場ノ一部慣火孔附近ニハ尚

一一三

70

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

我一部壊滅ヲ強ヒテ戦込ヲ続行ス

「パイプ」山万面終日敵砲撃続シ陸海軍兵力約三百ニ減ズ

本日來襲敵機約六十機艦砲射撃北及西部落ニ對シ約三万發ヲ算シ

同部落全ク潰滅化ス

三、大本營ノ硫黄島防衛作戦指導

一九四四年末ヨリ四五年初頭ニ亘ル比島作戦豫期ノ如ク進展セス

二月ニ入ルヤ敵ノ帝國本土及南方圏間ノ分斷ハ完成ス敵ハ爾後本

土包囲態勢ノ作戦ニ移行スヘク其ノ方向ハ先ツ小笠原諸島方面ニ

指向セラルル算大ナリト豫察セラルルニ至レリ

固ヨリ小笠原諸島ノ戦略的價値ハ黄ニ本土防衛ノ見地ニ於テ前進

陣地的性質ヲ有スルノ外之ガ喪失ハ米軍ヲシテ戦爆部隊ヲ以テス

ル本土空襲ヲ激化セシメ帝國戦力造成ニ至大ノ影響ヲ及ボスヘキ

モノアルノミナラス彼ノ絶海小島ニ蝟集スル航空船地上軍ニ痛撃

ヲ與フヘキ戦機ノ捕捉亦可能ナルモノアルヘシト雖モ帝國ハ過去

繰次ノ作戦ニ海上武力ヲ喪失シ近ク比島作戦ニ於テハ陸海航空ノ

補給ヲ消耗シ日下之カ再建ノ途上ニアリテ三ー四月ノ候陸海併セ

テ第一線機二千機内外ヲ整備スル間シテ之カ機種能力ハ京ク海上一

千粁ヲ翔破シテ小笠原諸島ニ便用スヘクモアラス殊ク陸上基地ヲ

活用シ得ル近キ將來中西諸島、臺灣方面ニ之カ使用ヲ豫定セサル

ヘカラズ増援兵力ノ輸送亦空海制空權ノ優越ニ待スル以上遠

時ノ派出ヲ庶幾シ難シ即チ硫黄島作戦ヲ契機トシテ戦勢ヲ轉機セ

シムヘキ空海地上作戦ヲ指導スルハ諸般ノ狀況之ヲ至難不可能ナ

ラシム唯只管現地軍既往ノ防備施設ニ依ル健闘ニ依存シ緊要ナル

本土防衛ノ為旬戦間隔ヲ獲得スルヲ以テ止ムヲ得サルモノト急セリ

但対機ヲ利用スル陸海少數機ノ特攻的攻撃洞水艦ノ奇襲或ハ義號

部隊ノ陸下攻撃等考慮セラルト雖モ之等ハ共ニ眞ニ一部ノ作戦的

術策ニシテ本會戦間稍スコトアルヘキ戦機ヲ活用スルノ方途ノ皆

無ナルハ前ニ遺憾至極ト云ハサルベカラズ

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

四 主陣地ノ戦闘

1 二月二十三日～二十五日ノ戦況

二十三日西地區正面ノ敵ハ〇九三〇熾烈ナル砲撃ノ下攻撃ヲ開始セシモ守備隊ハ西地區第一線及南地區第二線陣地ヲ確保シ阿蘇臺方面ヨリ逆襲シテ之ヲ撃退ス

「パイプ」山守備隊厚地大佐以下ハ第一線陣地殆ンド破壊セルニ鑑ミ主力ヲ以テ二一〇〇ヨリ出撃ヲ以テ一部ヲ導線確保用ニ残置シ主力ヲ以テ二一〇〇ヨリ出撃シ敵線ヲ突破シ千鳥飛行場西近友軍ト合一セリ

二十四日〇九〇〇～一五〇〇ニ亘リ元山、屏風山ニ對シ歩兵二大隊戦車少クモ四〇ノ敵攻撃シ激闘ヲ續行ス

本日ノ在空敵機約二〇〇機ヲ算ス

二十五日敵ハ陣地後方ニ砲爆撃ヲ指向シタル後全線ニ亘リ攻撃ヲ開始シ其ノ第一線ハ地熱原「タンク」岩阿蘇臺ニ在リ

2 二月二十六日ノ戦況

敵ハ昨夜來熾烈ナル砲爆撃ヲ全島ニ指向シタル後本朝來總攻撃ヲ再興シ千鳥飛行場附近ニハ敵集團アリ

其ノ第一線ハ城山、元山滑走路交叉點、屏風山南側、南波止場北側ノ線ニ進出シアリ

守備隊ハ奮闘克ク二段岩ニ來攻セル敵ヲ撃退セルモ一二三〇歩兵三大隊戦車一〇ノ敵ハ田原坂ヲ攻撃シ又城山西方主陣地ニハ一部ノ敵兵進入ス元山砲臺陣地屏風山ハ彼我ノ爭奪ヲ反復ス

3 我ガ損害及戦果概要

我ガ第一線部隊損害約二分ノ一（第一線大隊中五分ノ一ニ低下セシモノアリ）重火器ノ過半破壊ス

火砲ノ現存セルモノ概ネ左ノ如シ

野砲	一一	（四〇〇〇）
山砲	三	（二五〇〇）
十榴	九	（三五〇）

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

中迫　一三（五〇〇）
輕迫　三九（七〇〇）
白砲　四（一四一）
噴進砲　一四（二〇〇）
高射砲　一二（九四〇〇）　（　）内ハ彈數

本日迄ニ陸軍部隊ノ殲滅セル戰果ノ推定大要左ノ如シ

兵員　約一三、〇〇〇
戰車滅至炎上　約二一〇
飛行機撃墜破　約六〇
艦船（陸軍部隊）
撃沈　B又ハC二　C四　丁九　LST 3
炎上　LST等三一

一一八

一一九

4　二月二十七、二十八日ノ戰況

聯隊ハ一般ノ戰況ニ鑑ミ玉名山、東山地區北部落標流木附近ヲ獨立據點トシテ持久作戰ヲ繼續スルノ方針ヲ採リ二十七日夜第百四十五聯隊ノ第三大隊ヲ元山砲臺附近ヨリ玉名山ニ轉用シ且東地區ニ混成第二旅團ノ二大隊ヲ增加ス

二十七日敵ノ一部ハ玉名山ニ進入セルモ之ヲ撃退ス

二十八日敵ノ第一線ハ眼鏡岩硫黄岡二段岩ニアリテ二段岩方向ノ攻撃ハ特ニ猛烈ナルモ守備隊ハ克ク陣地ヲ保持ス

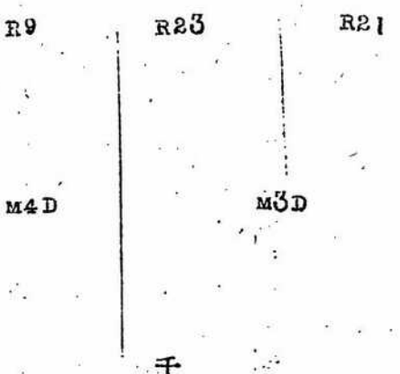
一二〇〇―一四〇〇ノ間東山方面又敵歩兵一大隊ノ攻撃ヲ受ケ大阪山ニハ敵一部侵入ス

守備隊ハ同夜逆襲ニ出デ眼鏡岩及二段岩ヲ奪取シ之ヲ確保ス

敵ハ攻撃部署ヲ變更シタルモノノ如ク本日ニ於ケル敵ノ配置概ネ左ノ如シ

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



5 三月一一三日ノ戦況

三月一日我ガ戦線ハ大阪山、眼鏡岩、二段岩ニアリテ米軍ト相對峙シアルモ米軍ノ一部ハ陣地間隙ヨリ進入シ古山、蹠生、天山、三軒屋、大阪山陣地背後ヲ攻撃ス

本日ノ來襲敵機二四一艦砲射撃六八〇〇ヲ算ス

一二〇

三月二日眼鏡岩、大阪山、二段岩附近尚我ガ手中ニアリト雖モ敵ノ攻撃極メテ熾烈ナリ守備隊ハ局地的小出撃ニ依リ戦線ノ確保ニ努力ス

一二一

三月三日大阪山陣地ハ歩兵約五十殘存シテ健闘ヲ續ケ玉名山ハ歩兵約八〇〇戦車一〇東地區ハ歩兵約五〇〇戦車四北部落ハ歩兵約六〇〇ノ攻撃ヲ受ケツツアリ西部落溫泉附近亦敵手ニ落ツ

五 復郭陣地ノ戦闘（三月四日ー三月十六日）

三月二ー三日ノ戦闘ニ依リ我ガ火砲戦車ノ大部ハ破壊シ八高射砲八門亦損傷ス）各級指揮官亦約三分ノ二以傷シテ兵團全力ノ組織的抵抗至難トナリ各獨立地區ニ於ケル據點ヲ復郭トシテ概ネ各個ノ戦闘餘行ニ移行ス

三月四日頃ニ於ケル我ガ守備兵力概ネ左ノ如シ

玉名山陣地	陸軍	一〇〇〇
	海軍	一〇〇〇

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

東地區陣地　五〇〇
北地區陣地　五〇〇
標流木陣地　三〇〇

一三月四日～七日ノ戰況

三月四日敵ハ各方面全面的ニ攻擊ヲ開始シ其ノ重點ハ北部落及標流木附近ニ指向セラレアリ

就中標流木附近ニハ歩兵一千戰車十數輛新ニ增加シ一一〇〇頃三軒屋ヲ奪取ス

三月五日師團長ハ北地區強化ノ爲東地區ノ主力ヲ北地區ニ收容シ其ノ殘部ヲ玉名山守備隊ノ指揮下ニ入ラシム

千鳥飛行場ニハ小型機ノ發着盛ニシテ本朝B24 B17各一機着陸セリ

三月六日朝來敵ハ攻擊ヲ再興シ其ノ重點ハ北飛行場附近ニ在リ

我カ北據點守備隊ハ爲ハ海岸西南端連絡所西南路三叉點、天山銀明水以北ヲ確保シ敢鬪死守ス　一三二

三月七日各方面戰況活潑ナリ就中敵ノ艦砲射擊爆擊ハ北地區ニ集中セラル天山ニ侵入セル敵ハ夜間ノ小逆襲ニ依リテ之ヲ擊退ス　一三三

2三月八日頃ヨリ十六日迄ノ戰況

三月八日各據點連日ノ激鬪ノ爲損傷甚大ナルモ志氣旺盛ナリ

千島飛行場ノ在地機中型輸送機九、P38一六其他一二機ヲ算ス

三月九～十日天山地區ニ進入セル敵ヲ擊退ス東山ニハ戰車ヲ含ミ臨海軍約七〇〇殘存シテ健鬪ス

玉名山守備隊ハ三月八日主力ヲ以テ出擊シ全滅シタルガ如キモ殘存部隊ヲ以テ尙東半部ヲ確保ス

三月十二日玉名山、天山終日激鬪ヲ繼續ス

敵ハ抗道攻擊戰法ヲ開始シ空中爆雷ノ使用ヲ激化ス

三月十三日天山遂ニ陷落シ殘存兵斬込ニ轉移セリ玉名山亦殆ンド潰滅セリ

三月十四日一部ノ敵ハ北部落ニ進入ス守備兵（約九〇〇）ハ出擊

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

斬込ヲ併用シテ健闘スルト共ニ軍旗ヲ奉焼ス

三月十六日

殘存兵力北地區約五〇〇東地區約三〇〇ニシテ防禦作戰ノ戰局愈〻終焉ニ近ツキタルヲ豫察セシム

六師團ノ總反撃決定

第百九師團長ノ戰闘指導ヲ回顧スルニ絶海猫額ノ孤島ニ激闘茲ニ一ヶ月此ノ間數十ニ餘ル敵艦艇ノ蝟集包圍射撃數百ニ昇ル敵機ノ跳梁爆撃數倍ヲ算スル敵上陸軍就中其ノ砲兵戰車ノ攻撃ノ裡ニ我ニ増援ノ兵力ナク戰勢轉換ノ目途乏シクシテ日ヲ逐フテ陣地ヲ喪失シ親愛スル部下ノ陣歿ヲ目送ス其ノ苦衷ヤ正ニ察スルニ餘リアリ

師團長ノ腦裏ニハ幾度カ總反撃ヲ以テ現在ノ苦腦ト責任ヲ脱脚セントノ思想浮ヒ上リタルモノアルベシト雖モ過早ノ玉碎カ全局ノ作戰特ニ本土防衛準備ニ資スコトノ薄キニ反省意及シ苦勝ト焦慮ヲ克服シテ持久出血作戰ヲ繼續シタルモノアルベシ加之隨時ノ大本營ニ對スル報告ニハ片言隻句防衛作戰上ノ苦難及希望ニ觸ルルコトナク常ニ本土防衛ノ完璧ヲ祈念スルノ章句ニノミ終始シタル眞ニ敬服感激ノ外ナシ師團ハ克ク最後迄志氣旺盛團結ヲ確保シ敢闘三旬敵ヲ落スコト約三萬ニ及ヒタルモ今ヤ據ルヘキ陣地形骸ナキ迄ニ破壊シ守備兵力亦僅少トナル即チ戰局正ニ最後ノ關頭ニ望ミタルヲ以テ十七日ヲ期シテ總反撃ヲ決行シ武人ノ最期ヲ飾ルヘク決意スル所アリ

七總反撃ノ經過

守備隊ハ十七日夜半ヨリ全員出撃セリ

十八日、十九日、二十日連絡ナク師團ノ消息不詳ナリ

二十一日海軍側電報ニ依レバ師團長歩兵第四十五聯隊長外四〇〇ハ北部落附近ニテ敢闘中ナリ

二十二日父島連絡ニテ最後ノ通信ヲ待タリ即チ「敵ハ歩兵ノ近迫

裏面白紙

攻撃ヲ中止シ戰車及凡有火砲ノミヲ以テ集中射撃ス師團ハ一丸トナリ機ヲ見テ標流木附近ヲ突破シ元山千鳥飛行場ニ向ヒ楔入突進ヲ期ス」ト

爾後各方面トノ連絡完全ニ杜絶シ茲ニ硫黄島作戰ハ終焉セリ

綜合戰果ノ推定左ノ如シ

人員　約三三、〇〇〇

戰車　二七〇

(ヘ)硫黄島攻略米軍指揮系位推定別紙第五ノ如シ

(ホ)硫黄島作戰終了後ノ小笠原諸島ノ狀況

一、三月二十五日大本營ハ在父島混成第一旅團長立花中將ヲシテ從來ノ第百九師團司令部ヲ以テ第百九師團司令部ヲ編成セシメ小笠原兵團長トシテ殘存ノ部隊ヲ統率セシム

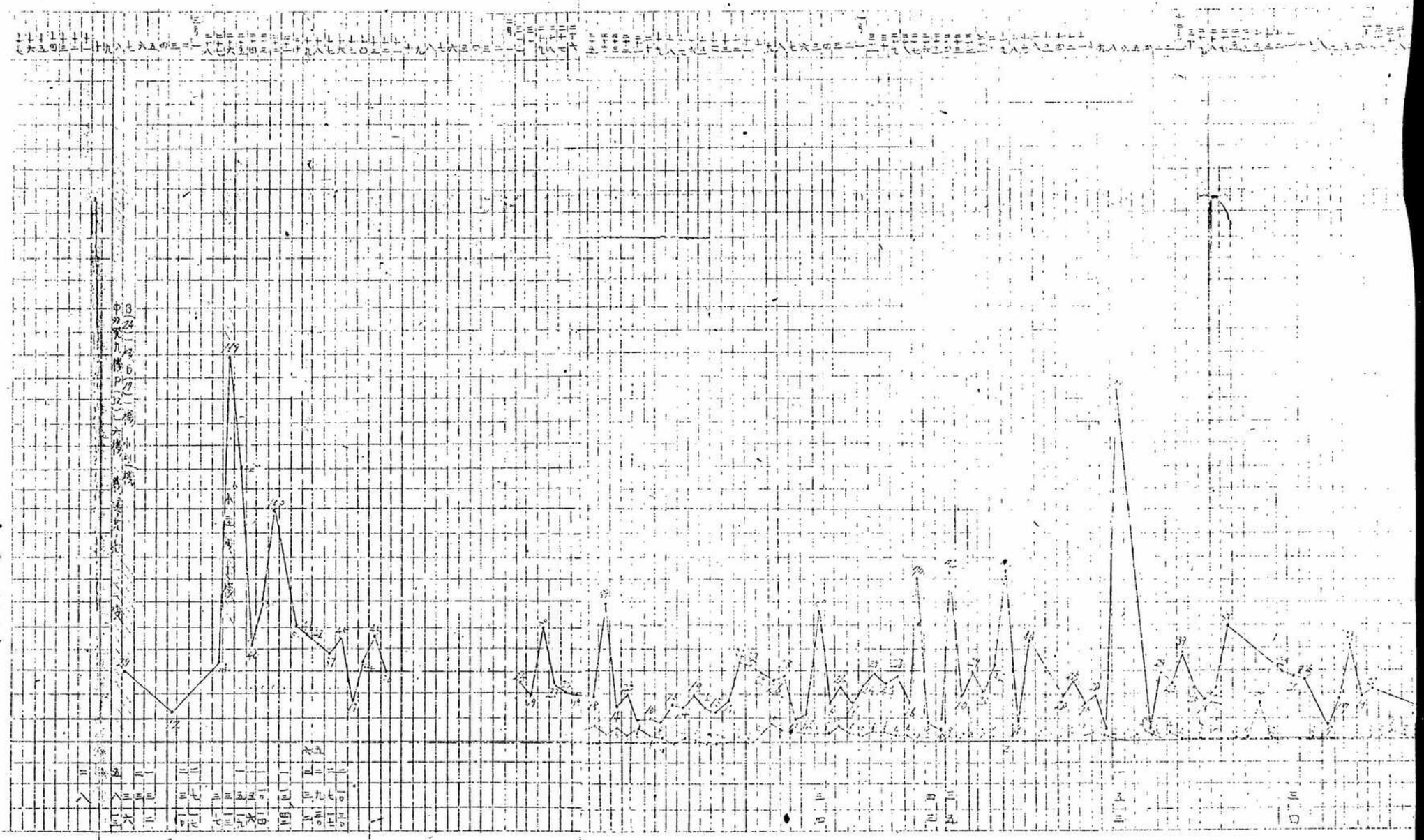
二、兵團長ハ爾後ノ防衛ニ關シ檢討ヲ加ヘ四月上旬各島嶼ノ防備ヲ強化スルト共ニ聟島ノ兵力ヲ機帆船ヲ以テ父島ニ集結ス　一二六

三、六月下旬爲眞偵察ノ結果ニ徴スレバ硫黄島飛行場在地機約二九五ヲ算ス　一二七

四、兵團ハ屢〻硫黄島ヲ基地トスル敵機ノ來襲ニ方リ果敢ナル地上火器邀撃戰鬪ヲ遂行シツツ終戰時ニ至レリ

77

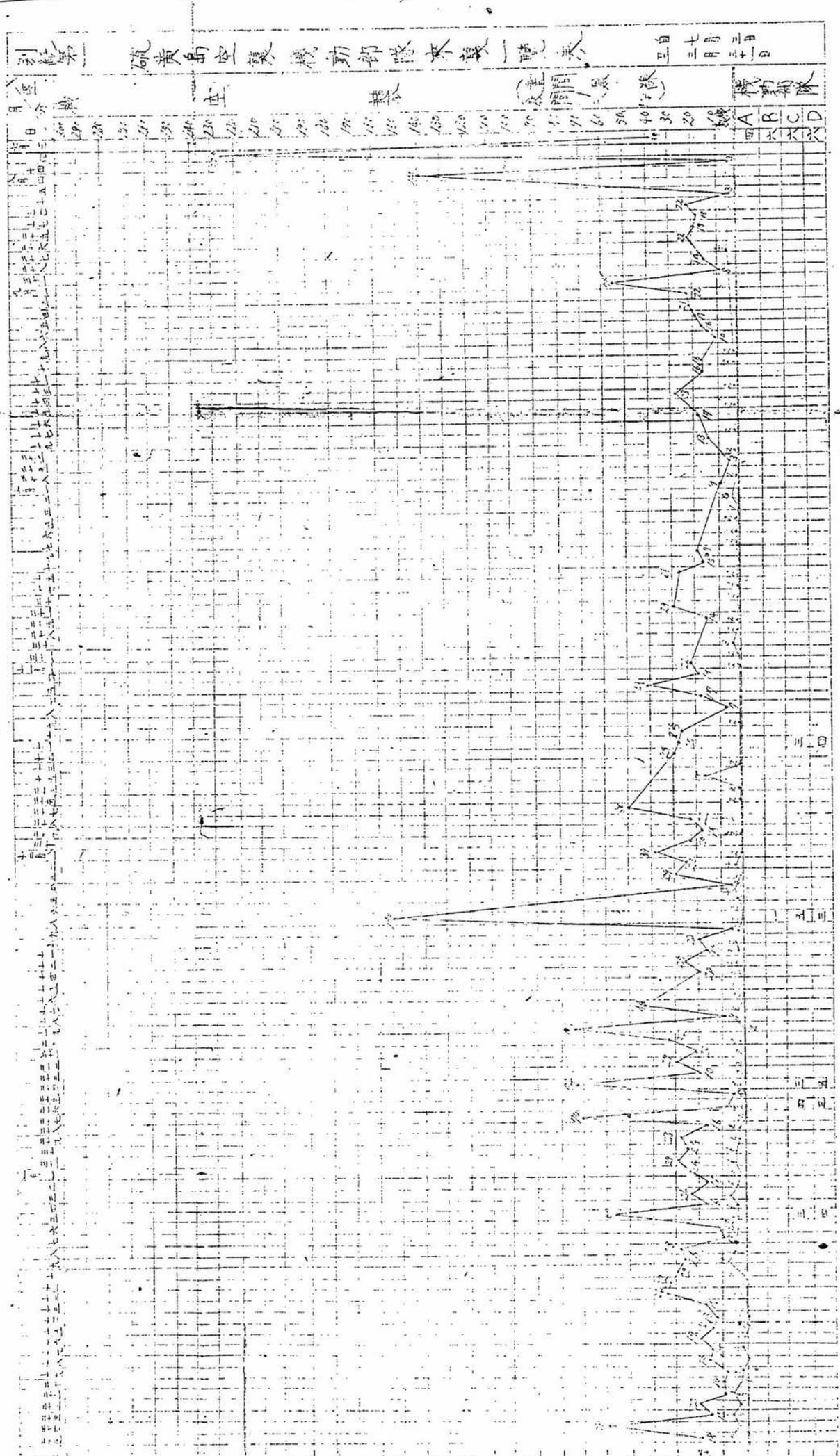
裏面白紙



1:32
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

裏面白紙



硫黄島膳部隊陣地配備要圖

（敵上陸前）

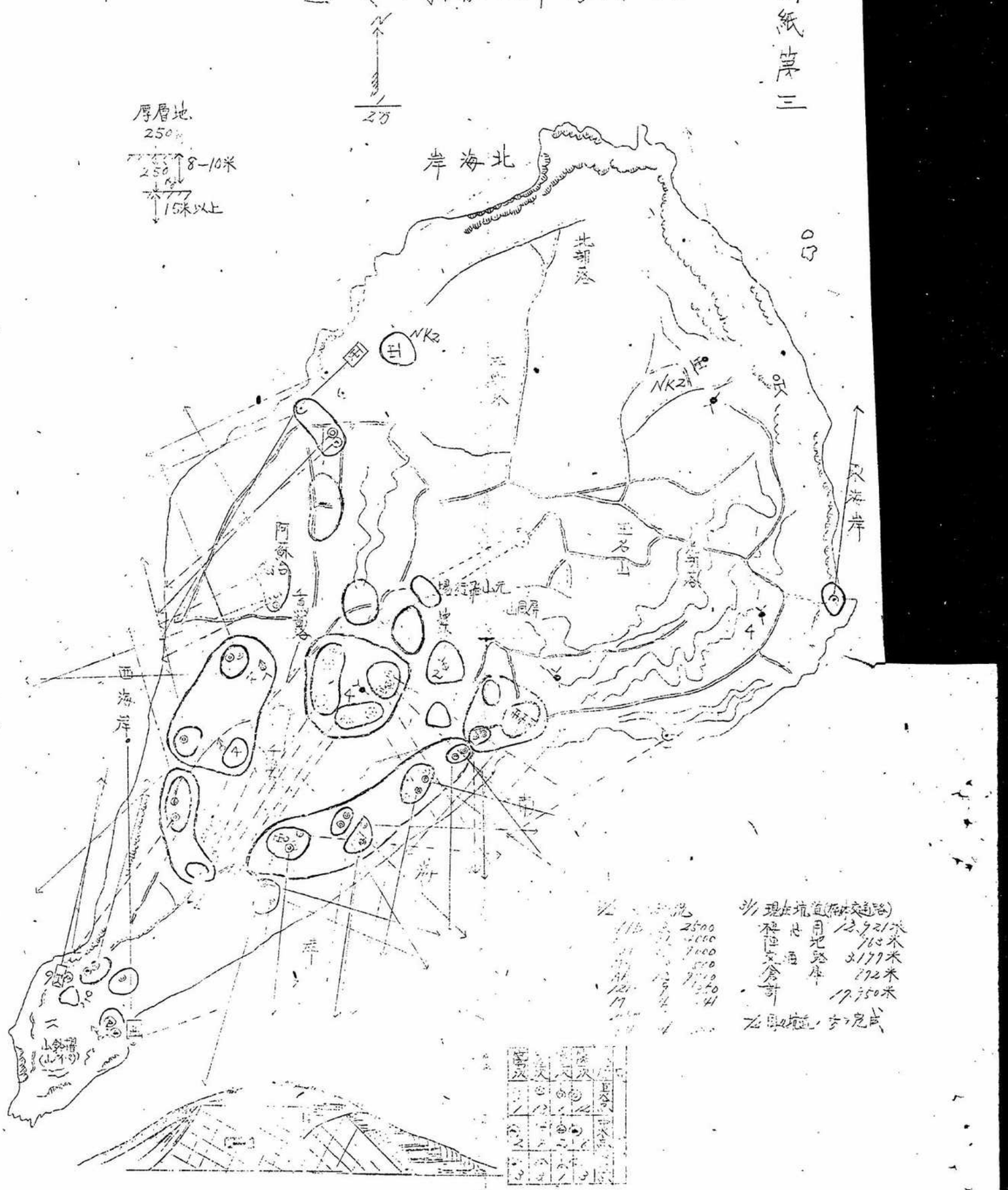
別紙第二

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

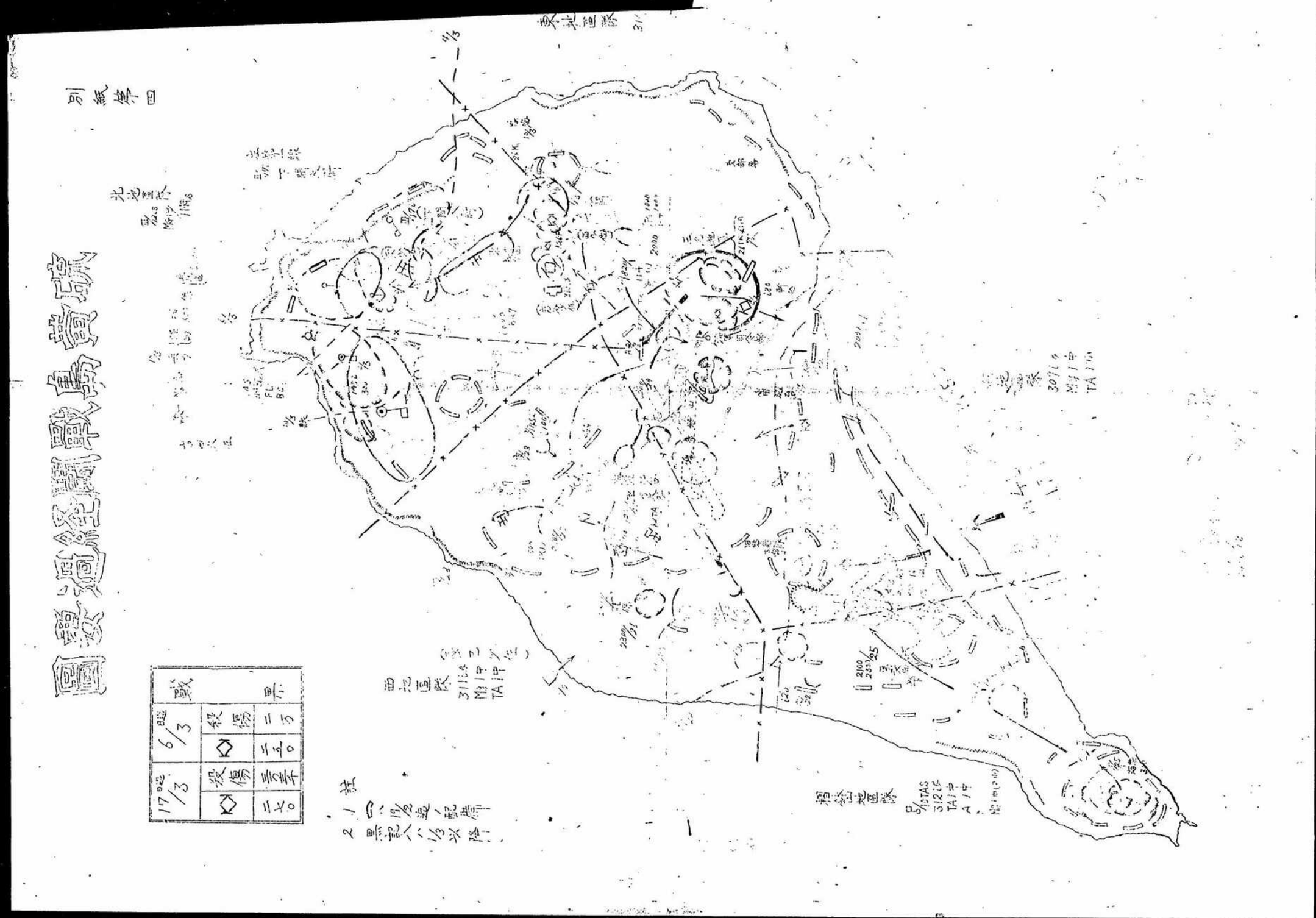
表面白紙

硫黄島陣地編成要圖

別紙第三



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

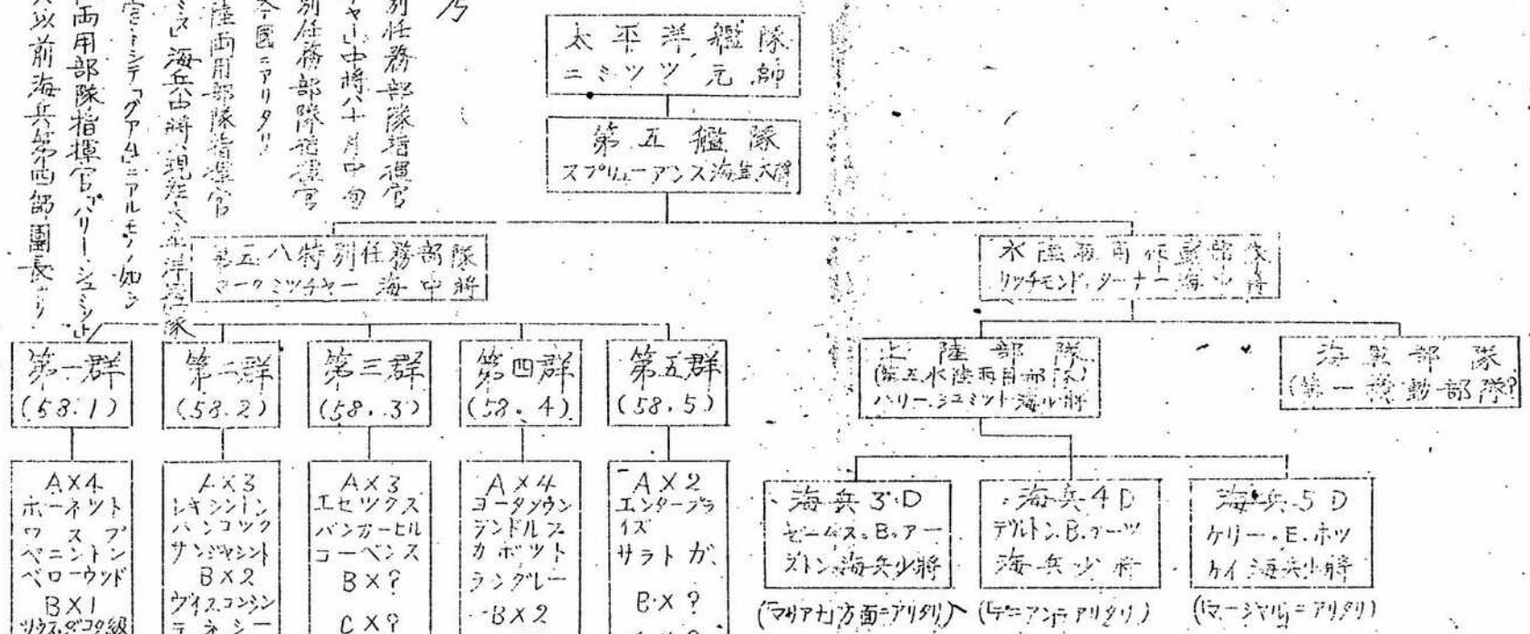


裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

別紙第五

硫黄島攻略部隊指揮系統推定表



備考

(一) 第五八特別任務部隊指揮官「マークミッチャー」中將ハ十月中旬第三八特別任務部隊指揮官ヲ免セラレ太平洋ニアリタリ

(二) 前第五水陸両用部隊指揮官「ポーランドスミス」海兵中將ハ現在太平洋任務部隊海兵隊司令官ニシテ「グアム」ニアルモノ如シ

(三) 第五水陸両用部隊指揮官「ハリー・シュミット」海兵少將ハ以前海兵第四師團長ナリ

82

1:225
裏面白紙
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第七章　「九四五年（昭和二十年）」中部太平洋諸島ノ狀況

第一節　第三十一軍ノ作戰指導

國防圏ノ前線中部太平洋諸島ノ核心「サイパン」「テニヤン」「グアム」崩壞シ敵ハ同地ニ海空基地ノ設定ヲ促進シ

一九四四年末以降遂次本土ニ對スル空襲ヲ激化ス二月比島ノ大部、三月硫黄島失陷シ茲ニ太平洋ハ全ク敵ノ制空海權下ニ入レリ

帝國ハ一路本格的ニ本土作戰ヲ準備シ既須ニ於テ遠隔離島ノ作戰力補給輸送上企圖スルモ實行シ能ハザリシ眞ノ決戰即チ大軍ノ集中運用ニ依ル陸海空一体ノ最後的決戰ヲ企圖ス

第三十一軍ハ右一般ノ戰勢ニ鑑ミ殘存各部隊ヲ掌握シテ夫々守備ヲ厳ニ

シ敵來攻ニ方リテハ之ニ多大ノ出血ヲ强要センコトヲ圖ルト共ニ現下本土決戰最大ノ寄與ハ中部太平洋ニ於ケル敵艦隊及航空部隊動向ヲ偵知シ之カ神速ナル提供ニ在リトシ凡有機關ヲ督勵シテ偵諜必成ニ邁進セリ

一九四五年六月「トラック」及「ウエーキ」島ニ對シ敵機動部隊（A_2 D_4 D_4ヲ基幹トス）來攻砲撃ヲ實施スル所アリシモ取闘克ク之ヲ撃退シ且損害頗ル軽微ナリ

第二節　終戰時ノ一般狀況

(一)軍ハ皇國ノ必勝ヲ祈念シツツ訓練防備强化陣地自活ニ重點ヲ指向シ鋭意作戰準備ヲ怠ラズ遂ニ八月十六日戰闘行動停止ノ命令ヲ受領シ茲ニ一切ノ作戰ハ終焉セリ

(二)終戰時ニ於ケル軍戰力

(イ)人員約三〇、五〇〇ニシテ其ノ地域別區分左ノ如シ

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

區分	人員
「マーシャル」地區（「ウエーキ」島ヲ含ム）	一、八九九
東「カロリン」地區（「クサイ」島含ム）	二四、二七八
「メレヨン」地區	五七二
「ロタ」地區	九四七
「パガン」地區	一、八二七
合計	三〇、五二八

(2) 兵器

各島嶼ニ於ケル兵器ノ概況左ノ如シ

種類	數量	彈藥摘要
小銃	三七、九八一	一八、八七四、九一〇
重輕機	三、三一〇	一三〇、六四二、七四
擲彈筒類	三、七六四	三七六、三三三
輕砲	一、二三六	六一六、七七八
重砲	八	二五一六 口徑十糎以上
地雷類	一七、九七三	口徑十糎以下
戰車	六二	
自動車 牽引車	九	
自動車 貨車	一、四七	
自動車 其ノ他	二七	

裏面白紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

車	一八三	
計		
舟艇	一四	

(3) 衣糧

(イ) 着用被服各人平均二装具一式ヲ保有ス

(ロ) 糧食

次戦糧食一ヶ月分ヲ保有シ其ノ他ハ現地生産品ニヨル但シ「ウエーク」「エンダービー」「メレヨン」ハ僅少ナリ

(ハ) 一九四三年八月ヨリ一九四五年八月迄ノ兵員ノ損耗左ノ如シ

戦死戦傷死	五一、九二三名
病死	五、二一二名
計	五七、一三五名

85

裏面白紙
めくれず

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

裏面白紙

RECEIVED
DEC 5 1946
G.H.Q.
G-2

391373
395

86

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

国立公文書館
分類
返 赤
配架番号
3 A
14
30-18

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

海護總機密第二一號ノ三五

昭和十九年八月十六日

海保戰訓資料第三四號

多摩丸被害事件概要竝ニ戰訓所見

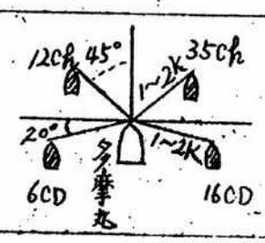
海上護衛總司令部

国立公文書館
分類
配架番号 30-18

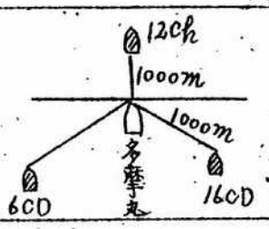
佐

一、經過概要

月日	時刻	經過概要	參考圖
六－三〇	一〇〇〇	「セダ」〇一船團（旺洋丸、安土山丸）ト共ニ「セブ」發（護衛艦第三十一號驅潛）、六號、十六號、十九號海防艦一	
七－一	一三四五	多摩丸（第三十一驅潛隊、六號、十六號海防艦護衛）「スリガオ」海峡北口ニテ分離「バラオ」ニ向フ（速力九節　之字運動實施）	
七－二	〇八一八	六號海防艦敵潛ラシキモノ探知、脅威投射ヲ行フ（二個）	
	〇九〇〇	同艦原位置ニ復歸ス	
	一七〇〇	夜間多摩丸ト護衛艦トノ距離一、〇〇〇米以内トス	



七－三	一三〇〇	針路一〇〇度ニ變針
	一三一〇	味方水偵一機上空直衛開始
	二一四〇	六號海防艦敵潛望鏡ラシキモノ左正横附近ニ認メ船團右四十五度緊急一齊回頭
	二一四二	攻撃ニ向ヒタルモ浮流物ナリシコト判明セルヲ以テ㊍㊍㊌ヲ報ジ船團ニ追及
	二二〇〇	原針路一〇〇度ニ復ス
七－四	〇一三〇	五〇根電令ニ依リ三十五號驅潛艇ヲ分離新任務ニ就カシム
		十二號驅潛艇ヲシテ多摩丸ノ艏約一、〇〇〇米ニ占位セシム（信號ヲ用ヒズ）
	〇三五〇	多麻丸雷撃ヲ受ケ汽笛吹鳴發光信號ヲナス
		各護衛艦艇附近探知捜索
		（被雷狀況）
		被雷前、月ハ水平線附近ノ黑雲ニ入リ遽



ニ暗黒トナリ眼鏡ヲ以テシテモ約四、〇〇〇米ヲ見得ルニ過ギズ多摩丸生存者ノ言ニ依レバ約五〇〇米ニ雷跡ヲ認メタルモノアリト言フモ明確ナラズ護衛艦ニ於テ事前雷跡ヲ認メタルモノナシ

生存者ノ言ニ依レバ魚雷二本中一本ハ船首通過一本ハ三、四番船艙附近左舷側ニ命中セリト

（當時護衛艦艇ハ水測兵器ヲ使用セルモ電探ヲ使用シアラズ）

〇四一〇 多摩丸沈没

〇五五〇 十二號駆潜艇、十六號海防艦ヲシテ浮上生存者救助ニ從事セシメ六號海防艦ヲシテ探知捜索ヲ續行セシム

〇七一四 生存者救助終了

二、戦訓所見

視界狭小時ニ在リテハ注意ノ粗密ニ依リテ著シク視認ノ程度ニ差異ヲ生ズルモノナレバ特ニ注意ヲ密ニシ微細ノ徴候ト雖モ之ヲ忽諸ニ附セズ且情況ノ變化ニ應ジ機ヲ逸セズ當時最適ノ兵器ヲ活用シ警戒力ノ全能ヲ發揮シ敵ヲ制スルヲ要ス

多摩丸被襲撃當時護衛艦艇ガ月没ノ爲急激ニ暗黒化シ見張困難トナリシニモ拘ラズ電波探信儀ヲ積極的ニ使用セザリシハ適當ナラザルモノト認ム

（終）